

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部
附属子どもケアセンター年報

第 10 号

2025 年 3 月

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部
附属子どもケアセンター

はじめに

名古屋学芸大学には、「管理栄養学部」「メディア造形学部」「ヒューマンケア学部」「看護学部」の4学部があります。学生たちは学部ならではのカリキュラムに沿って、専門的な学びを深めていきます。大学祭やサークル活動、大学全体で取り組むボランティア活動のほかに、普段の学生生活のなかで、学生たちが他学部生と交流できる機会はそれほど多くありません。しかし、それは何とも「もったいないこと」だと思います。

少々乱暴な言い方をすれば、かつての日本の社会では、均一性や同調性が求められ、「あうん」の呼吸でわかりあえる心地よさが優先されてきたように思います。しかし、「多様性」がキーワードのひとつでもあるこれからの社会では、そういうわけにはいきません。これから生きる学生たちは、今まで以上に、多様な文化的背景や価値観を持った人々と関わりながら、社会生活を送っていくことになります。社会レベルの多様性に比べれば、学内で体感できる多様性はささやかなものかもしれません。しかし、学生のうちに他学部生の考え方に触れ、多角的な視点を獲得しておけば、多様性社会をしなやかに生きていくときの基盤になると思うのです。

「名古屋学芸大学 2024 年度教育シンポジウム」のテーマは、「4 学部連携の横断的な学び～多様な考え方が育む力」です。まさに、学部間の交流が希薄なままでは「もったいない」から、横断的学びで学生が成長した事例をもとに、学部連携について考えていきましょう、というわけです。発表された事例三つのなかで、二つが子どもケアセンターに関わるものでした。一つは、子どもケアセンター事業のひとつ「遊びの交流会」に関する事例です。ヒューマンケア学部と管理栄養学部の学生が連携し、地域の親子に遊びを提供しました。もう一つは、設置型ベビーケアルーム「mamaro」のラッピングデザインに関する事例です。メディア造形学部とヒューマンケア学部の学生が子どもケアセンターをご利用のみなさまにインタビューし、そこで集めた子育て家庭の声がラッピングデザインに活かされました。子どもケアセンターが社会につながっている場所だからこそ、学部連携の横断的な学びの場に選ばれたのだと思います。

残念ながら、今号(第 10 号)のなかに、他学部と連携した事業の報告はありません。しかし、この年報をお手に取っていただければ、子どもケアセンターが学びの場としても重要な役割を担い、大きな可能性を持っていること、そして、そのことが子どもケアセンターならではの子育て支援につながっていることをご理解いただけるかと思います。

今後も大学内に設置されている強みを活かし、地域の子育て支援を担っていきたいと思います。ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025 年 3 月

子どもケアセンター長 加古有子

目 次

【第1部】 名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属子どもケアセンター 理念と特性・・・	P 1
1. 子どもケアセンターとは	
2. 子どもケアセンターが目指すもの	
3. 子どもケアセンターの子育て支援・相談活動の特性	
4. 『体験型教育プログラム』の構築をめざして	
【第2部】 2024年度 事業報告	
I. 年間スケジュール、利用実績	P 5
II. 事業報告	
1. 親子であそぼう会	P 8
2. 親子のひろば	P15
3. 親力アップセミナー	P20
4. 自由開放	P23
5. 子育てサークル活動	P24
6. 遊びの交流会	P25
7. 子ども心理相談室	P30
8. 学生の子どもケアセンターの活用	P33
9. その他	P40
・子ケア通信の発行	
IV. 資料	P53

第 1 部

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部
附属子どもケアセンター「理念と特性」

1. 子どもケアセンターとは

子どもケアセンターは、平成 18 年 7 月の開設当時から、地域に開放した子育て・子育ての応援活動に取り組むと同時に、これからの保育者や養護教諭、小学校教諭などの専門職を目指す学生たちが応援活動に参加し、子どもたちと触れ合い、子育て中の親の思いに触れることにより、より実践力のある人材養成の教育活動を推進してまいりました。

平成 24 年度から、『日進市子育て支援センター事業』を受託し、平成 28 年度から『子ども心理相談室』を開設しました。

地域の親子、学生、大学の教員など、多彩な立場の人が集い、互いに育ち合える、総合的な子育て支援ができる地域の子育て支援の拠点として充実を図りながら、子どもや子育て中の親の思いに寄り添い、幅広い子どもケア活動ができる人材の養成を更に推進したいと考えています。

2. 子どもケアセンターが目指すもの

(1) 人材養成の拠点として

名古屋学芸大学の『実学』と『現場重視』の教育理念を具現化するため、子どもケアセンターで行う地域貢献活動に学生が積極的に参加する『体験型教育』を進め、実践的で応用力のある人材養成を目指します。

(2) 地域貢献活動の拠点として

メディア造形・管理栄養・ヒューマンケア学部が連携し、大学がもつ専門性を地域に開放し、地域貢献活動を推進します。また、学生、大学の教員、子ども、子育て中の保護者が互いに学び合える新しい形の子育て支援拠点の充実を目指します。

(3) 子育て支援や学生の保育実践力育成に必要な研究の拠点として

子どもケアセンターでは、大学や地域がもつ力を融合させ、未来を見通しながら、これからの子育て支援のあり方や学生の保育・教育実践力を育成するための研究の推進を目指します。

3. 子どもケアセンターの子育て支援・相談活動の特性

(1) 質の高い子育て支援プログラムを提供します。

プログラム運営には、経験豊富な保育者をはじめ、名古屋学芸大学の教員が関わり、現代の子育て・子育てのニーズに即した、総合的な子育て支援活動の質的研究を進め、質の高い子育て支援事業を追求していきます。

(2) 異年齢の子どもとの交流を通して豊かな育ちを支援します。

名古屋学芸大学の学生たちが、子育て支援事業に参加し、乳幼児と触れ合ったり、保護者の気持ちに寄り添ったりします。また、管理栄養学部、メディア造形学部の学生と協力して地域の親子に楽しんでもらえるようなイベントを企画・運営し、子どもたちと幅広い交流の機会をつくることで、いたわりや憧れの気持ちを育み、地域の子どもたちの豊かな心と体の育ちを支援していきます。

（３）親として育つプロセスを支援します。

保護者自身が、わが子の発達のありようを理解し、わが子との関わりの幅を広げ、親子の絆を深めてもらいたいと願っています。子どもケアセンターでは、そうした保護者としての育ちのプロセスに生じる悩みに寄り添い、保護者同士が語り合うグループワークを活用した子育て支援を大切にします。

（４）発達に心配をもつ子ども・親への支援をします。

子どもの発達に心配をもつ保護者は、保護者自身の思いが子どもに届きにくい体験から、焦燥感や孤立感を深めることに陥りやすくなりがちです。子どもケアセンターでは、保護者の思いに寄り添うきめ細やかな支援を、日進市の保健センター、子ども発達支援センターなどとネットワークをつくり、早期から連携できるようにします。

（５）気軽に相談できる場をつくり子育て不安の軽減を図ります。

子どもケアセンターには、幅広い専門性をもつ保育者がいることから、子どもの発達、遊び、しつけ、基本的生活習慣など、気軽に子育ての相談を受けられる機会を設定しています。また、併設する子ども心理相談室では、臨床心理士が子育てや子どもの発達に関する相談に個別に応じます。

（６）地域の仲間づくりを支援します。

各講座のほか、子育て家庭に子どもケアセンターを開放し、子育て中の親子が仲間と出会う機会をつくります。また、親子のひろばを卒業した親子がつくる子育てサークルにも子どもケアセンターを開放し、サークル活動を支援します。さらに、にっしん子育て総合支援センターと連携し、地域の仲間づくり活動の広がりや深まりを支援していきます。

（７）子育て支援ネットワークをつくり、活動を推進します。

子どもケアセンターは、多彩な立場の人が集い、それぞれが育ち合える、新しい形の地域の拠点づくりを進めます。しかし、地域全体で子育て家庭を支え合う街づくりは、一人やひとつの機関・施設では実現できません。子どもケアセンターは、多様な子育て支援活動団体や公的機関・施設と、情報・人・役割をつなぐネットワークをつくり、活動を推進します。

（８）大学のもつ専門性を活かした子育て情報の発信をします。

各講座、ホームページ、『子ケア通信』、日進市広報、Instagramなどを媒体として、大学のもつ専門性を発揮した、子育てに活用しやすい、分かりやすい情報の発信に努めます。また、子ども心理相談室では、幼稚園、保育所、小学校との連携も深めていきます。

4. 『体験型教育プログラム』の構築をめざして

子どもケアセンターの運営は、地域の方々、大学の教員、学生で協働して行なわれています。体験型教育プログラムとは、学生たちが、授業で学んだ知識を基に、子どもケアセンターで行う地域貢献活動に参加し、理論と実践を統合させることです。また、体験を通じた学びをレポートにまとめ、発表するなどの『実践的な応用力』を養っていきます。

(1) 授業と連動した取組（体験）

子どもケアセンターを知る	幼児保育専攻 1 年の『子どもケア基礎演習』では、子どもケアセンターの施設見学をして事業内容を理解します。体験の第一歩は、まずは子どもケアセンターをよく知ることから始まります。
子どもと触れ合う心構えを学ぶ	幼児保育専攻 1 年の『保育職キャリアデザイン I』では、観察・体験・討論を通して子どもと触れ合う心構えとともに、子育て家庭の保護者との関わり方を考えます。
子どもに安心・安全な環境づくりを学ぶ	幼児保育専攻 2 年の『乳児保育』では、乳幼児に相応しい発達を促す玩具を手作りしたり、乳幼児の安全・衛生の管理などの環境づくりを学んだりします。
授業の学びを親子の前で発表する	幼児保育専攻 4 年の『保育・教職実践演習』では、小グループで遊びの企画・準備を行い、子どもたちに提供します。子どもとのやりとりのタイミング、間合いなどを身につけます。

(2) 授業の空き時間を使った主体的な取組

主体的に取り組む	授業の空き時間を使って、ボランティアなどに自らの目標をもって取り組みます。その『主体性』は、子どもケア実践の土台をつくる力です。先輩の実践をモデルとして、憧れの気持ちを膨らませます。その『子どもとの関わりを深めたい』という前向きさが、自分自身を成長させます。
子どもの心に寄り添う	『親子のひろば』や『親力アップセミナー』の託児体験では、幼い子どもたちの言葉にならない心のサインを読み取り、子どもの気持ちに寄り添う姿勢を学びます。この『寄り添う』姿勢こそが、子どもケア実践の基礎の力となります。

保護者の思いに触れる	託児を通して、大切なわが子を託す保護者の思いに触れ、子どもの様子や自分自身の気付きを保護者に伝えます。また、子育てに葛藤する声を聞きます。そうした、子育て中の保護者のさまざまな思いに触れ、学外実習では味わえない体験をします。
子育て支援の大切さに気付く	地域に広がる子育て支援の中で、保育者や養護教諭、小学校教諭の役割とは、いったいどのようなものか、事業に参加して、子育てに悩む保護者の声を聞き、保育者による子育て相談を見ることで、子育て支援の大切さや専門職の役割について考えます。
子どもと楽しさを共有する	子どもは、どんなに幼くても、ひとりひとりが意思をもっています。頭の中での想像と、子どもと関わるなかで見る実際の子どもの姿とはまるで異なることがあります。子どもの反応を受け止めながら、楽しさを共有できる『間合い』を生きた体験から学びます。
仲間と共にイベントを創りあげる	これからの専門職としての保育者や養護教諭、小学校教諭には『企画力・調整力・協働する力』が必要です。『遊びの交流会』を企画・運営し、地域子どもたちと関わる中から感じたことを大切にしています。

(3) 各学部と協力した総合的な取組

学部を超えて知恵をつなぐ	年2回行っている『遊びの交流会』では、管理栄養学部、メディア造形学部、ヒューマンケア学部の学生たちがそれぞれの専門性を活かして、子どもたちの心が躍るようなダイナミックな遊びを中心としたイベントの企画をしています。
--------------	--

第 2 部

2024 年度 事業報告

I. 年間スケジュール、利用実績

(1) 2024 年度 年間スケジュール

	日	月	火	水	木	金	土
4		1	2	3 入学式	4	5	6
	7	8	9	10 自由開放	11	12 あそぼう会	13
	14	15	16	17 あひるA	18 あひるB	19 りす	20
	21	22	23 サークル	24 自由開放	25	26 自由開放	27
	28	29 昭和の日	30 自由開放				
5				1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日
	5 こどもの日	6 振替休日	7	8 あひるA	9 あひるB	10 りす	11
	12	13	14 自由開放	15 サークル	16	17 自由開放	18
	19	20	21	22 あひるA	23 あひるB	24 りす	25
	26	27	28 自由開放	29	30 サークル	31 自由開放	
6							1
	2	3	4 サークル	5 あひるA	6 あひるB	7 りす	8
	9	10	11 自由開放	12 サークル	13	14 自由開放	15
	16	17	18	19 あひるA	20 あひるB	21 りす	22
	23	24	25 自由開放	26	27 あそぼう会	28 サークル	29
	30						
7		1	2 自由開放	3 サークル	4 サークル	5 親力アップ	6
	7	8	9 自由開放	10 サークル	11 サークル	12 自由開放	13
	14	15 海の日	16	17 あそぼう会	18	19 あそぼう会	20
	21	22	23 自由開放	24 サークル	25 自由開放	26 サークル	27
	28	29	30 サークル	31 サークル			
8					1 自由開放	2	3
	4	5	6 特別講義	7 特別講義	8	9	10
	11 山の日	12 振替休日	13	14	15	16	17
	18	19	20	21 自由開放	22 自由開放	23 自由開放	24
	25	26	27 サークル	28 自由開放	29 自由開放	30 サークル	31
9	1	2	3	4 あそぼう会	5 自由開放	6 サークル	7
	8	9	10 サークル	11 りすA	12 りすB	13	14
	15	16 敬老の日	17 自由開放	18 サークル	19 あひるA	20 あひるB	21
	22 秋分の日	23 振替休日	24 自由開放	25 りすA	26 りすB	27 自由開放	28
	29	30					
10			1	2 親力アップ	3 あひるA	4 あひるB	5
	6	7	8 サークル	9 りすA	10 りすB	11 自由開放	12
	13	14 スポーツの日	15	16 サークル	17 あひるA	18 あひるB	19
	20	21	22	23 りすA	24 りすB	25 大学祭準備	26 大学祭
	27 大学祭	28	29 自由開放	30 自由開放	31 あひるA		
11						1 あひるB	2
	3 文化の日	4 振替休日	5	6 りすA	7 りすB	8	9 遊びの交流会
	10	11	12	13 あそぼう会	14 あひるA	15 あひるB	16
	17	18	19 自由開放	20 サークル	21 自由開放	22 サークル	23 勤労感謝の日
	24	25	26	27 自由開放	28 自由開放	29 サークル	30
12	1	2	3 自由開放	4 サークル	5 親力アップ	6 自由開放	7
	8	9	10 自由開放	11 サークル	12	13 自由開放	14
	15	16	17	18 あそぼう会	19 自由開放	20 自由開放	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

	日	月	火	水	木	金	土
1				1 元旦	2	3	4
	5	6	7	8 サークル	9 サークル	10 自由開放	11
	12	13 成人の日	14 自由開放	15 自由開放	16 サークル	17 サークル	18
	19	20	21 サークル	22 サークル	23 自由開放	24 自由開放	25
	26	27	28	29 あそぼう会	30 サークル	31 サークル	
2							1
	2 入試	3 入試	4 入試	5 入試	6 入試	7 入試	8 入試
	9	10	11 建国記念の日	12 サークル	13 自由開放	14 自由開放	15
	16	17	18 自由開放	19 サークル	20 サークル	21 自由開放	22
	23 天皇誕生日	24 振替休日	25 サークル	26 自由開放	27 自由開放	28	
3							1 遊びの交流会
	2	3	4 サークル	5 自由開放	6 自由開放	7 サークル	8
	9	10	11 自由開放	12 サークル	13 サークル	14 自由開放	15
	16	17	18	19	20 学位授与式	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

(2) 項目別相談件数

項目	基本的 生活	発達・ 発育	医学的 問題	生活 環境	育児 方法	虐待 関係	合計
件数	4	15	0	12	18	0	49

(3) 事業別参加組数

事業名		回数 (回)	定員述べ組数 (組)	参加組数 (組)
親子であそぼう会		8	120	94
親子のひろば	りす前期	5	40	35
	あひる前期	10	80	69
	りす後期	10	80	74
	あひる後期	10	80	55
自由開放	事前申込み	53	555	431
	当日枠	51		303
子育てサークル		32		258
親力アップセミナー		3	42	37
遊びの交流会		2		123
心理相談室		随時		33
合計				1512

(4) 地区別参加者数

		親子であそぼう会	親子のひろば	親力アップセミナー	自由開放	子育てサークル	遊びの交流会	心理相談室	合計
日進市	親	74	169	31	297	193	114	31	1096
	子	83	171	32	339	207	130	19	1208
名古屋市	親	7	9	2	61	12	21	0	140
	子	7	9	2	70	12	23	0	157
長久手市	親	12	29	4	37	34	15	1	158
	子	14	29	4	42	34	17	2	170
尾張旭市	親	1	2	0	6	0	4	0	15
	子	1	2	0	6	0	5	0	17
みよし市	親	0	0	0	1	0	0	0	1
	子	0	0	0	1	0	0	0	1
瀬戸市	親	1	10	0	11	10	2	0	40
	子	1	10	0	12	10	2	0	43
豊田市	親	2	8	0	13	18	3	0	54
	子	2	8	0	17	23	5	0	70
東郷町	親	0	0	0	1	0	0	0	1
	子	0	0	0	1	0	0	0	1
その他	親	3	9	1	17	4	14	1	59
	子	5	9	1	17	4	16	0	62
合計		213	474	77	1567	537	371	54	3293

(5) 事業別学生参加者数

事業名		学生				
		幼4	幼3	幼2	幼1	計
親子であそぼう会		0	0	13	6	19
親子のひろば		14	19	70	23	126
自由開放		3	68	15	105	98
サークル		0	0	0	0	0
親力アップセミナー		3	0	4	13	20
遊びの交流会	ワクワクこどものくに ～あつめよう、ひみつのたから～	0	33	41	66	140
	主役はキミ！絵本の世界に飛び込もう！	24	15	17	9	65
子ども心理相談室						
計		44	135	160	222	561

II. 事業報告

1. 親子であそぼう会

1. 趣旨

家庭でもできる年齢に応じた遊びや季節に因んだ活動を提供し、楽しく子育てができるよう支援する。

2. 日程・内容

	日程・対象・当日参加組数/定員	内 容
1 回	2024 年 4 月 12 日 2 歳児の親子 13 組/15 組	親子で散歩を楽しもう ・大学構内の散歩、こいのぼり製作
2 回	2024 年 6 月 27 日 1 歳の親子 15 組/15 組	1 歳のお友だち集まれ ・運動遊び、親子で触れ合い遊び
3 回	2024 年 7 月 17 日 1 歳児の親子 12 組/15 組	親子で水遊びを楽しもう ・色水遊び、寒天粘土、的あて、水車など
4 回	2024 年 7 月 19 日 2 歳児の親子 13 組/15 組	親子で水遊びを楽しもう ・色水遊び、寒天粘土、的あて、ウォーターズライダーなど
5 回	2024 年 9 月 4 日 0 歳の親子 12 組/15 組	0 歳のお友だち集まれ ・自由遊び、グループ交流、触れ合い遊び
6 回	2024 年 11 月 13 日 2 歳児の親子 8 組/15 組	親子で散歩を楽しもう ・大学構内の散歩
7 回	2024 年 12 月 18 日 2 歳児の親子 11 組/15 組	親子でクリスマス会を楽しもう ・トーンチャイムの演奏、製作、サンタクロースと雪だるま登場、パネルシアターなど
8 回	2025 年 1 月 29 日 2 歳児の親子 10 組/15 組	親子で節分を楽しもう ・ペープサート、お面作り、豆まきごっこなど

3. 活動の概要

(1) 親子で散歩を楽しもう

①概要

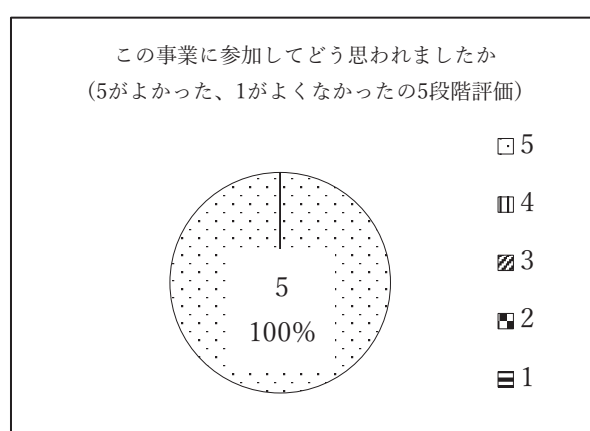
親子で手をつないで子どもケアセンターを元気に出発し、横断歩道を渡りながら大学構内の散歩に出かけた。どんぐり広場では春の草花を摘んだり、どんぐりや落ち葉を拾って自分のバッグに入れたりする子どもの姿がみられた。芝生の広場では急な斜面だったが、

果敢に登り下りしたり、苔のクッションを踏んで感触を楽しんだりした。

その後大きなこいのぼりが待つ休憩所へ移動し、こいのぼり製作をした。紙コップに自分の好きなようにうろこのシールを貼り、自分だけのこいのぼりを作った。完成したこいのぼりは首からかけて、大きなこいのぼりと一緒に写真撮影を楽しんだ。

②参加者アンケートより

- ・みんなで道路を渡ったり移動したりと少しだけ集団行動ができてよかった。
- ・歩き回る我が子と参加したが、しっかり見てくださる方が多く安心してお散歩できた。また色々な場所へ行けて、発見も多く子どももとても楽しそうだった。
- ・安全が確保され、季節を感じられる散策、製作ができて盛りだくさんの内容だった。
- ・自然がいっぱいの大学構内をお散歩できて、親子共々楽しかった。



(2) 1歳のお友だち集まれ

①概要

例年NUASホールで行っていたが広いホールに緊張してしまう子どもが多くいたので、今年はプレイルームとスロープ横に子どもの興味に応じて親子で遊べるような遊具を準備した。プレイルームにはブロックマットの滑り台、ゆらゆらトンネル、くねくね道などを置き、スロープ横には慣れ親しんだ滑り台、ワニのトンネル、コロナ禍に入り撤去していたボールプールなどの大型遊具を設置した。普段から遊び慣れているままごとコーナーがあることで、いつもと雰囲気の違うプレイルームに緊張していた子どもも遊びだせていた。ゆらゆらトンネルに座り揺れたり、滑り台をハイハイで上ったり、久しぶりのボールプールに飛び込んだりと体を使って楽しむ姿がみられた。

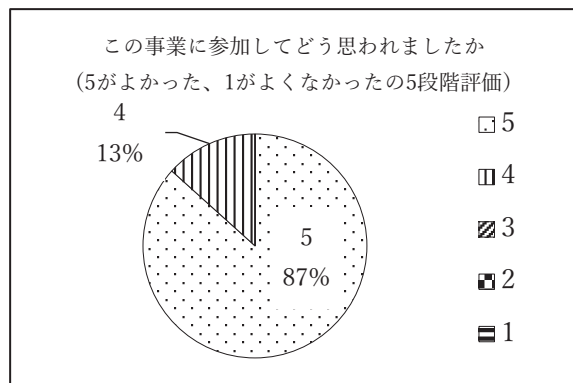
最後に保育士によるお楽しみタイムを設け、わらべうたに合わせて転がったり、くすぐったりと触れ合い遊びの時間を楽しんだ。

②参加者アンケートより

- ・体を使う遊びとおもちゃ遊びと両方あったので飽きずに子どもも遊べた。
- ・いつもの子どもケアセンターとは違い、運動系の遊具が置いてあってとても楽しそうだった。

った。同じ1歳同士の子ばかりで安心だった。

- ・家で遊べない遊びができ、また、近い月齢のお友達との交流ができて良かった。
- ・普段ない遊具があり、体をのびのび動かして良かった。
- ・保育士さんも一緒に遊んでくれるので安心感がある。



(3) 親子で水遊びを楽しもう 〈1歳児〉〈2歳児〉

①概要

水に触れる心地よさや色の変化を楽しめるよう、的あてや色水遊びなどを準備した。また、すくったり流したり、水の動きを見て楽しんだり、親子で様々な体験ができるように手作りのペットボトルシャワーや水車、水鉄砲などのおもちゃを設定した。身近な廃材を利用したおもちゃを多く用意し、家庭での水遊びにも応用できるように作り方を掲示した。

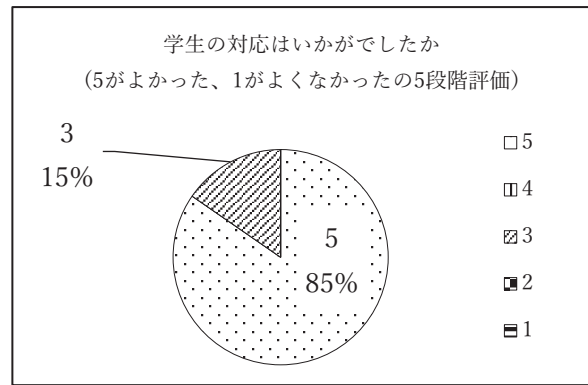
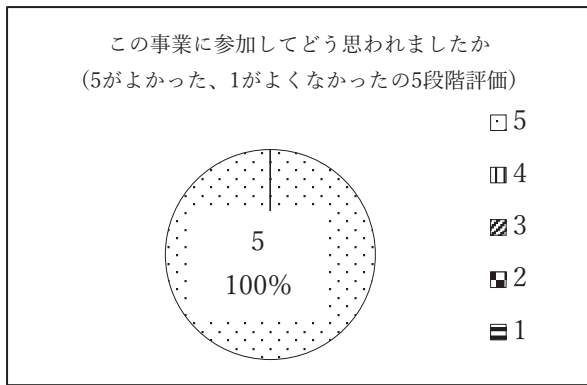
今年は寒天を使った感触遊びを取り入れた。寒天の感触を楽しんだり型抜きをしたり、廃材の容器に詰めたりして遊んでいた。簡単に作れるものではあるが、家庭での掃除の手間などで手が出しにくいこともあり、その点気にすることなく遊べたことも高評価につながった。

②参加者アンケートより

〈1歳児〉

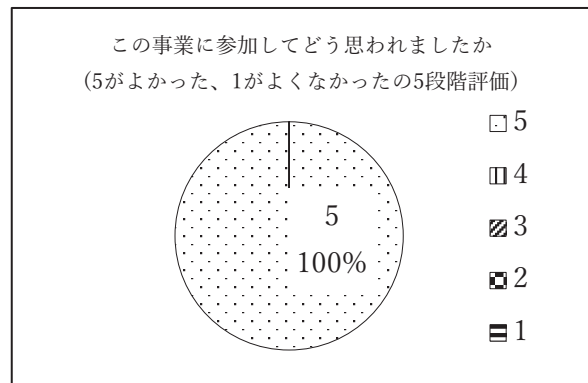
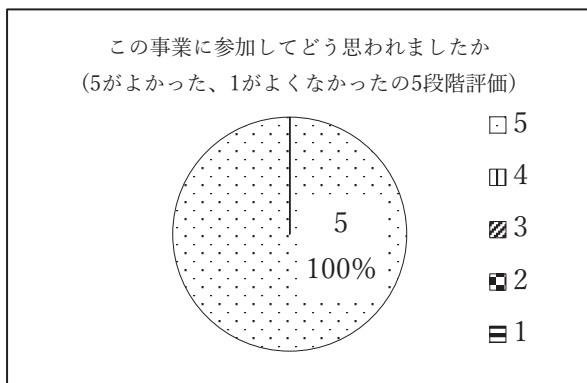
- ・水遊びのおもちゃが可愛かった。色水や寒天など、家でできないことが出来て良かった。
- ・暑すぎてなかなか出かけられる場所がないので、こういう機会を作っていただきありがたい。
- ・たくさんの水遊びのおもちゃがあり、とても楽しそうに遊んでいた。たくさんのおもちゃを作っていただきありがたい。また来年もあったら参加したい。





〈2 歳児〉

- ・寒天遊びに夢中でずっと遊んでおり、ここまで集中することがなかなかないので、新たな一面がみられて良かった。こんなに寒天遊びに熱中するなら、自宅でも実践してみようと思った。
- ・色水、寒天遊び、水鉄砲、手作りのおもちゃなどたくさんの遊びが用意されているから良かった。
- ・テントも設置してあり、普段できない遊びがたくさんできて良かった。

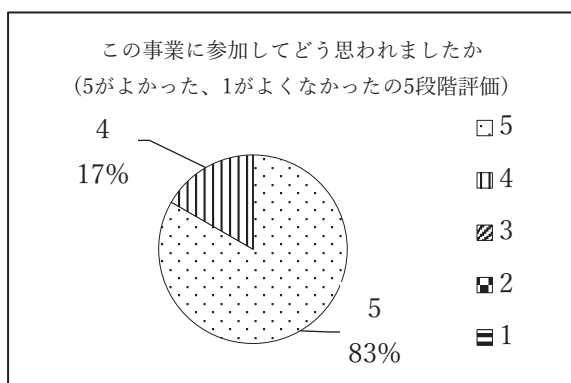


(4) 0 歳のお友だち集まれ

①概要

6 か月から 1 歳前までの子どもと保護者を募集し、ハイハイや歩き始めなどそれぞれの発達に合わせた玩具や遊具を用意した。学生や保育者の手作り玩具に興味をもつ子が多く、保護者からは家で作ってみたいという声が聞かれた。マットのすべり台やトンネルなどの遊具では、ハイハイや腹ばいで体全体を使って楽しんでいた。また、月齢ごとにグループ交流の時間を設け、参加者同士で子育ての情報交換をする機会をつくった。離乳食、卒乳や後追いの話題が出て、同じ悩みを共有し、和やかに話される様子がみられた。

②参加者アンケートより



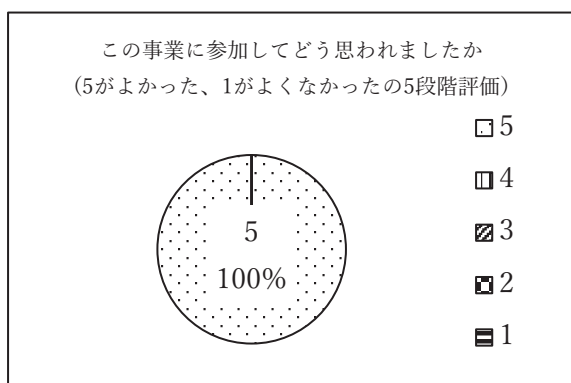
- ・階段やトンネルなど家ではなかなかできない体を動かす遊びができた。月齢の近いお子さんの存在が刺激になった。
- ・手作りの玩具がたくさんあって、家でも作ってみようと思った。
- ・同じ月齢の子どものお母さんたちとお話しできる機会があってよかった。

(5) 親子で散歩を楽しもう

①概要

春の散歩の際配布した散歩バッグに加えて、双眼鏡も身につけて大学構内に出かけた。どろり広場では、親子でどんぐりや木の枝を拾って散歩バッグに入れたり、走っているバスに手を振ったりした。春の散歩より距離を伸ばし校舎の奥まで進み、初めて見るサルノコシカケを興味深く見たり、モミジバフウを集めたり、色付いた落ち葉を見つけたりする姿がみられた。落ち葉を踏んだりまき散らしたりして感触を楽しんだり、通りにあるツバキ、ムカゴ、キウイを探したりしながら歩いた。元気よく歩いて進む子どもが多く、秋の自然を感じながら、楽しい時間を過ごすことができた。

②参加者アンケートより



- ・綺麗な紅葉を楽しみながら親子でリフレッシュできた。
- ・友だちと一緒に気候の良い中散歩ができて、木の実を探したり落ち葉で遊んだりして楽しそうだった。
- ・普段は入れない大学構内まで入れて楽しい散歩ができた。
- ・自然に触れ合いながら、親子や友だちと体を動かしつつ楽しめた。

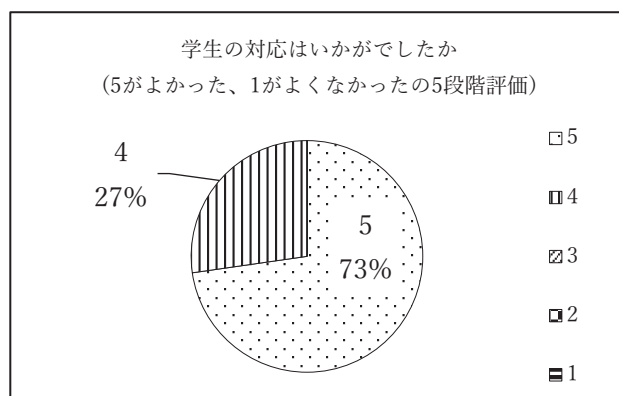
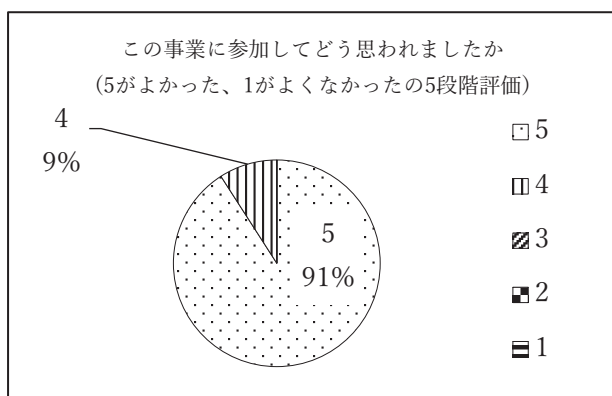
（６）親子でクリスマス会を楽しもう

①概要

トーンチャイムを初めて見る子どもが多く興味深く見ていた。厳かな雰囲気が始まるので最初は緊張していた子どもも、次第に笑顔が見られるようになった。

サンタ、ブーツの製作をはじめ、簡単なダンス、パネルシアターなど内容的にも盛り沢山で行うことができた。サンタ、トナカイ、雪だるまとの触れ合いや写真撮影など、一人ひとりゆっくり関わることができるのも子どもケアセンターならではの、保護者の方にも喜んでいただけた。

②参加者アンケートより



- ・トーンチャイムの音に癒された。
- ・保育士さん、学生さんがたくさんいてくださったので子どもの安全を確保できた上でクリスマスの雰囲気を楽しめて良かった。
- ・きょうだい参加のご家族は、小さいお子さんをみてもらえていたので良いと思った。
- ・トーンチャイム、とても綺麗だった。終始とても楽しい雰囲気でクリスマスらしく特別感もあって楽しめた。

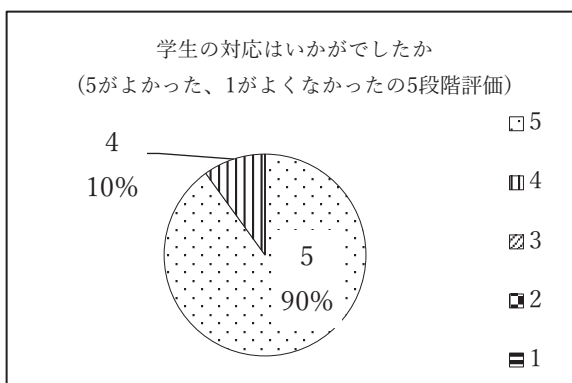
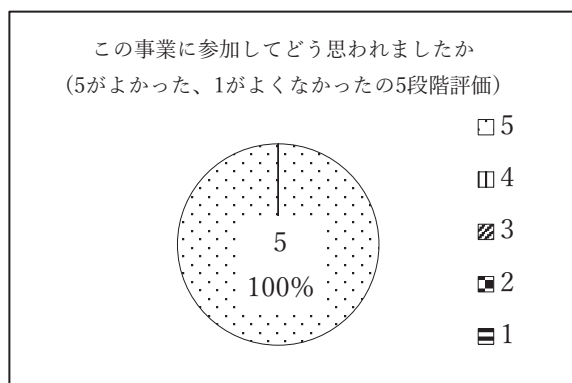
(7) 親子で節分を楽しもう

①概要

最初に導入としてペープサートを見る時間を作り節分のイメージが湧く様にした。節分とはどのようなものかを具体的に伝え製作や豆まきを行った。個人のお面を製作した後、4体の大型鬼に子どもたちがシールやお絵描きで装飾し、完成した鬼に向かって豆まきを行った。

後半は鬼に扮した保育士が、豆まきの歌を演奏しながら愉快に登場した。鬼の怖いイメージを払拭し楽しく豆まきをすることができた。

②参加者アンケートより



- ・ 普段の遊びの中では体験させてあげられないことが沢山できて子どもたち自身も楽しめ、親としてもとても嬉しかった。
- ・ 季節の行事をこれでもか！というくらい楽しめた。
- ・ 安全に配慮した環境で工作や絵本や音楽など、色んなことを通して節分を楽しめた。
- ・ 学生さんたちにも優しく接して頂き有難かった。



2. 親子のひろば

1. 趣旨

0、1歳児の子育てについて、仲間と一緒に考え合い、保護者同士が交流する機会を提供し、子育てを支援する。

2. 日程・活動の概要

(1) 前期

①対象・定員

あひる：生年月日が2022年4月2日～2023年4月1日の子どもとその保護者各8組

りす：生年月日が2023年4月2日～2023年9月30日の子どもとその保護者各8組

②日程・活動の概要

回	日程	内容	託児
1回	4月17日	子どもケアセンターのプレイルームに慣れよう	無し
	4月18日	・簡単な自己紹介	
	4月19日	・託児の聞き取り	
2回	5月8日	自己紹介ゲームをしよう	別室
	5月9日	・出身地といつ今の住まいにきたか・おすすめの場所・お気に入りの食べ物・学生時代の部活 など	
	5月10日		
3回	5月22日	子育てについて話してみよう	別室
	5月23日	・旦那が担当する育児や家事・離乳食・自分の時間をつくるための工夫やオススメの方法・お気に入りのおでかけスポット・食事の時の対応・きょうだい児への接し方 など	
	5月24日		
4回	6月5日	センサリーボトルを作ろう	別室
	6月6日	ほっと一息ティータイム	
	6月7日		
5回	6月19日	サークルを立ち上げよう	無し
	6月20日		
	6月21日		

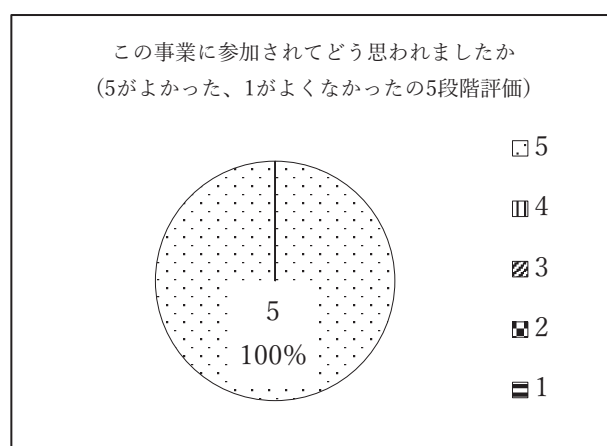
保護者同士の交流を必要とし申し込みをされたのでご縁とつながりを大切にしてほしいという思いから、最終的にサークルを立ち上げることを目的とした全5回の連続講座にした。1回目は子どもケアセンターに慣れてもらうことを目的とし、簡単な自己紹介と子どもについての聞き取り、自由遊びの時間を設けた。2回目は子どもたちを別室託児し、保護者同士

よりお互いを知ろうという目的で自己紹介ゲームを行った。友達同士でも話さない様な内容もあり盛り上がった。3回目は事前にアンケートで子育てについての悩みや聞きたいことを答えてもらいそれに基づいて話し合う場を設けた。悩みを共有出来たことで心が楽になった方がいたり、子育てあるあるで話が盛り上がりたりと終わった後の保護者の方たちの笑顔が印象的だった。4回目は人気のセンサリーボトル作りを行った。家で無心で何かを作る機会が無いのですごく楽しかったという声が多かった。5回目はサークルの立ち上げをした。今後、サークルメンバーとしてつながりが深まるように写真撮影をしたり、バルーン遊びをしたりと親子で楽しめる活動を行った。

③参加者アンケートより

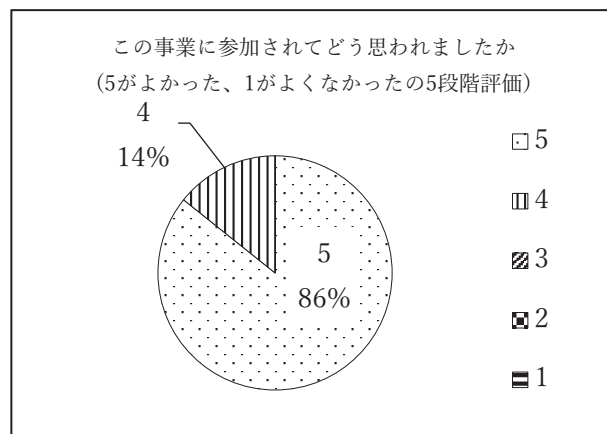
＜りす＞

- ・ 託児を初めて経験できて良かった。学生の方にもお世話をしてもらえて楽しそうだった。子育てのことを同じ月齢の保護者と話せて良かった。
- ・ 全日良い内容だった。気分転換ができた。
- ・ 上の子が居るので毎日バタバタして下の子の為に支援センターなどに行くことができなかった為こういう機会を作ってくれて嬉しかった。



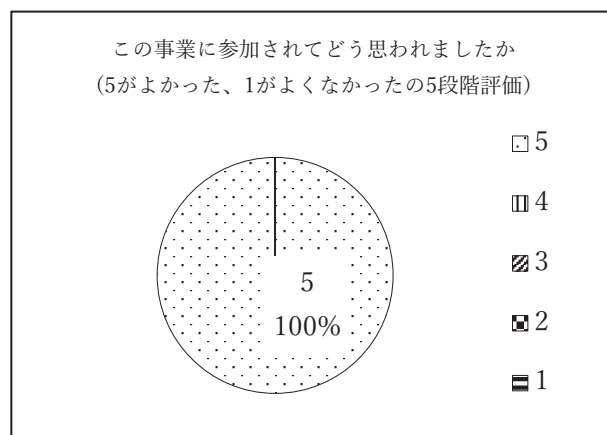
＜あひる A＞

- ・ 子どもが楽しそうだった。私もいろいろな保護者の方と話せて良かった。
- ・ 受講スタイルじゃなくておしゃべりメインなのが良かった。
- ・ メンバーがすごく良かったので毎度楽しく過ごすことができた。



＜あひる B＞

- ・ 子どもが親から離れてお友だちや保育士さんと楽しく遊べる機会はほとんどないのでとても良かった。新しい出会いがあり楽しかった。
- ・ 同い年の子どもと保護者とざっくばらんに話せて良かった。
- ・ 親子それぞれの交流を丁寧にサポートしてくれたので育児について保護者の方とたくさん相談し合えた。



(2) 後期

①対象・定員

りす：生年月日が2023年4月2日～2024年4月1日の子どもとその保護者各8組

あひる：生年月日が2022年4月2日～2023年4月1日の子どもとその保護者各8組

②日程・活動の概要

回	日程	テーマと内容	託児
1回	9月11日 9月12日 9月19日 9月20日	子どもケアセンターのプレイルームに慣れよう ・自己紹介 ・託児の聞き取り	無し
2回	9月25日 9月26日 10月3日 10月4日	自己紹介ゲームをしよう ・お気に入りの食べ物・現在(昔)の趣味・やめられないことや物・子どもが寝たら何がしたいか・学生時代に好きだった音楽やアーティスト・昔のアルバイト など	別室
3回	10月9日 10月10日 10月17日 10月18日	子育てについて話してみよう ・毎日の生活の流れ・平日の子どもとの過ごし方・ファミサポ等の利用・離乳食の内容、量・トイレトレーニングの方法・イヤイヤ期の対応・きょうだい児の育児 など	別室
4回	10月23日 10月24日 10月31日 11月1日	センサリーボトルを作ろう ほっと一息ティータイム	別室
5回	11月6日 11月7日 11月14日 11月15日	サークルを立ち上げよう	無し

毎回欠席者がいること、2グループに分かれての作業も多いことを考慮して、各クラス8名募集とした。2回目の自己紹介ゲームでは保護者同士のことがじっくり話せるということで大好評である。りすで盛り上がり欠けた内容を1週間後のあひるでは改善し、『人生で一番行って良かった場所』『昨日は何をしましたか?』の項目を追加した。子どもが生まれる前に行った場所を懐かしんだり、行ったことがある人同士が良さを共有したりしてさらに会話が弾んだ。5回目のサークル立ち上げでは、保護者主体で話し合いをしてもらったことで個性豊かなサークル名が決まり、回を重ね和気あいあいと交流する姿がみられた。

③参加者アンケートより

<りす A>

- ・初めてここで託児を経験して、母子分離でどんな様子を見ることが出来るかを知ることが出来た。なかなか親族以外で託児をすることがなく、出来てもお金がかかることがあるので、凄く嬉しかった。
- ・普段支援センターや自由開放ではいつもと同じメンバーということはないので、こういう機会があることで私も気分転換になり、とても楽しい時間だった。

<りす B>

- ・色々な人と育児についての話が出来て楽しかった。毎回行くのが楽しみだった。
- ・よく泣く子で心配していたが、学生の子も子どもケアセンターの先生方も我が子に寄り添っていただけて安心して過ごすことができた。

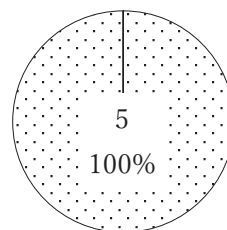
<あひる A>

- ・人数が適当で楽しく話したり作ったりして、全員の名前を覚えることができた。外で会ってもお話できそう。
- ・気が合いそうな保護者がいてもなかなか連絡先を聞けなかったり、次回の会う約束ができなかったりと後悔することが多いが、これなら子どもケアセンターの方から促してもらえるのでありがたい。

<あひる B>

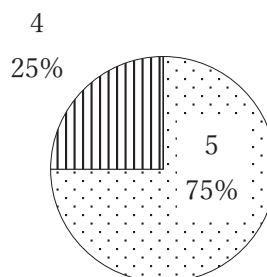
- ・子どもが親と離れる時の反応を知ることができ、入園前の心の準備ができた。
- ・子どもは家族以外の人と遊ぶ機会がなかったので、母子分離を経験できて、母親はゆっくり会話を楽しむことができた。

この事業に参加されてどう思われましたか
(5がよかった、1がよくなかったの5段階評価)



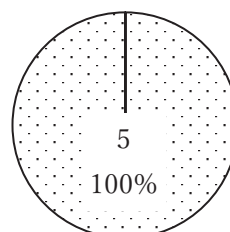
□ 5
▣ 4
▤ 3
▥ 2
▦ 1

この事業に参加されてどう思われましたか
(5がよかった、1がよくなかったの5段階評価)



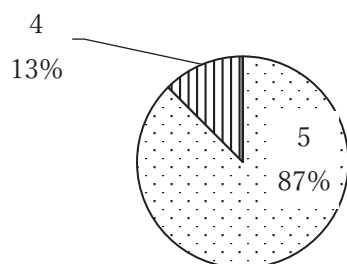
□ 5
▣ 4
▤ 3
▥ 2
▦ 1

この事業に参加されてどう思われましたか
(5がよかった、1がよくなかったの5段階評価)



□ 5
▣ 4
▤ 3
▥ 2
▦ 1

この事業に参加されてどう思われましたか
(5がよかった、1がよくなかったの5段階評価)



□ 5
▣ 4
▤ 3
▥ 2
▦ 1



3. 親力アップセミナー

1. 趣旨

ヒューマンケア学部及び他学部の教員による専門性の高い講話や実践を通して、子育てを支援する。

2. 日程・内容

	日程・対象・当日参加組数／定員	内容・講師
1 回	2024 年 7 月 5 日 1 歳以上 4 歳未満の子どもとその保護者 14 組/15 組	親子で楽しむ音楽体験～手遊びからクラシックまで～ 岡田暁子 ヒューマンケア学部子どもケア学科 教授
2 回	2024 年 10 月 2 日 6 か月以上 4 歳未満の子どもとその保護者 9 組/12 組	ヨガと瞑想～ありのままを楽しもう～ 林麗子 ヒューマンケア学部子どもケア学科 准教授
3 回	2024 年 12 月 5 日 6 か月以上 4 歳未満の子どもとその保護者 14 組/15 組	子どもの育ちと愛着形成 藤井真樹 ヒューマンケア学部子どもケア学科 准教授

3. 講座の概要

(1) 親子で楽しむ音楽体験～手遊びからクラシックまで～

①概要

グランドピアノの音や、絵本の内容に合わせた歌や演奏を楽しんだり、様々な楽器に直接触れたり親子で音楽に触れ合った。

“ピアノさんこんにちは”では、普段見る機会が少ないグランドピアノの中を間近で覗き見ていた。鍵盤をたたくと鍵盤につながったハンマーが動き、ピアノ線をたたいて音が出る様子に目を輝かせながら熱心に見ている子どもの姿があった。

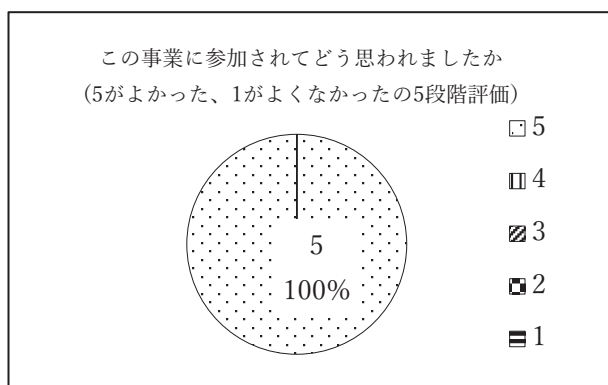
“音付き絵本”では『はらぺこあおむし』の絵本に合わせて保育士が歌を歌い、講師によるピアノの伴奏やウインドチャイム等を使った生演奏に親子で聞き惚れていた。

“親子で触れ合って遊ぼう”では色々な触れ合い遊びを楽しんだ。中でも『ひつつきもつつき』は声を出して盛り上がるほど人気だった。

“親子で楽器と遊ぼう”では普段見慣れた楽器から初めて見る楽器もあり、好きな楽器に触れたり音を鳴らしたり、親子共にとても楽しそうにしていた。

②参加者アンケートより

- ・素敵な演奏を聴けて娘にとって素晴らしい経験になったと思う。
- ・本物の楽器の音や感触を体験できて良かった。あおむしの歌の本は、特に真剣に見て楽しそうだった。
- ・ピアノの生演奏を聴いたり、ふれあい遊びを教えていただいたり、様々な楽器に触れたり
と貴重な経験をたくさんさせていただけた。



(2) ヨガと瞑想～ありのままを楽しもう～

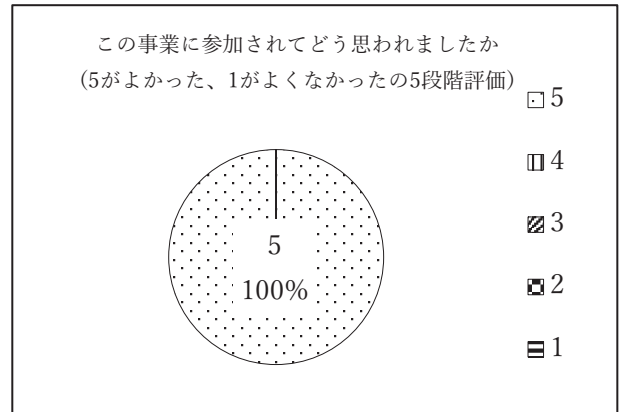
①概要

子どもと離れて、素の身体が感じていることに意識を向けてリフレッシュをする講座を本学の講師を招いて行った。NUAS ホールでヨガマットを円を描くように敷き、身体を無理なく動かしてほぐしていった。講師の穏やかな声に耳を傾けながら、日頃からの疲労で凝り固まった筋肉を伸ばしたり、目を瞑り自分の身体と向き合ったりした。身体を伸ばした後には瞑想し、とてもリラックスしている様子であった。

心身をリラックスさせた後に子どもと対面し、託児をした学生から様子を伺う保護者の姿はとても穏やかに感じた。その後、子どもと共に参加者でシェアリングを行った際には、「すごくリラックスできた」「一人でリフレッシュできて贅沢な時間だった」「年に一回ではなく、もっとやってほしい」などの声があがっていた。

②参加者アンケートより

- ・学生さんや保育士さんに見ていただき、息子も楽しく、私も十分にリラックスできて幸せだった。
- ・一人時間を確保できる、母子分離の練習ができる、マンツーマンで保育してもらえらる。
- ・安心して子どもを預けて自分の時間がもてた。とても贅沢な時間だった。



(3) 子どもの育ちと愛着形成

①概要

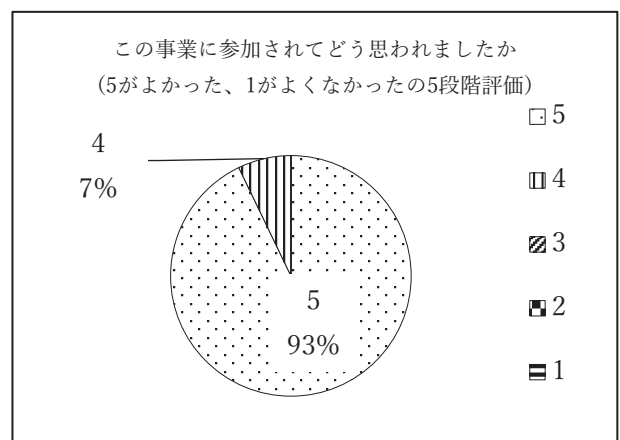
4歳未満の子どもをもつ保護者を対象に、愛着形成について学ぶ講座を実施した。まずは講師が「子育てを漢字一文字で表すと？」と参加者に尋ね、それぞれ「穏」「器」など思いつく漢字とその理由を答えていた。

乳児期に特定の大人との情緒的な絆をしっかりと形成する大切さについて、資料を基に解説を聞き、愛着についての理解を深めた。“乳児期のアタッチメントが、特定の大人との間でどのように形成されたのか”が基盤となり、その人の他者との関わり方、周囲の出来事の捉え方や受け止め方に影響することなど講座を通して学んだ。

講座終了後も、普段の子育ての質問をする参加者が多く、専門家の意見を取り入れたい方に多く受講していただけた。

②参加者アンケートより

- ・ちょうど愛着についての本を読んだりしていたところで興味のある内容で勉強になった。
- ・育児本を読むだけでは理解できない内容を解説付きの講座で理解できた。
- ・講師の方の伝え方が素敵だなと思った。一方的な伝え方ではないことに好感がもてて、とても聞きやすかった。



4. 自由開放

1. 趣旨

地域の子育て家庭にプレイルームを開放し、親子が安心して触れ合う場や他の親子と交流する場を提供するとともに、子育ての相談に応じる。

2. 日程・対象

日程：年間スケジュール参照

時間：10：00～15：00

対象：4歳未満の子どもとその保護者



3. 活動の概要

今年度から4歳未満の子どもであれば就園していても来所が可能となり、夏休みに入ると4歳未満の年少児の利用が増えた。また、就労している保護者が休みの日に親子で来所する姿もみられた。昨年度同様、事前予約枠10組、当日枠5組とし、午前も午後も各計15組となるように募集を行ってきた。翌月分の日程について、今月の製作やフォトスポットと併せて、Instagramで案内した。当日枠を設けることで、当日の都合や子どもの体調に合わせて申し込みをされる方や、連日来られる方も増え、毎回10～15組程の親子が来所された。スロープ横では、コロナ禍に入り中止していたボールプールを設置すると大盛況だった。冬にはコンビカーを出し、道に沿って走ったり、滑り台を楽しんだりする姿が多くみられ、プレイルームではままごと、今月の製作、2歳児向けに新たに指先を使って遊べるマグネット、歯医者さんセット、整備士セットなどを取り入れると人気が集まった。また、『今月のわらべうた』をプレイルームに掲示して毎回お楽しみタイムで紹介した。

これまでは母子で来所される方がほとんどであったが、時代に合わせて父親の来所が増えてきている。育休取得中の父親だけでなく、夜勤の出勤前や休日に夫婦で来られるなど、育児への参加意識が高くなっていると感じる。寒い季節は昨年導入した床暖房がとても重宝した。

前期は幼児保育専攻1年の『保育職キャリアデザインⅠ』の授業と連携し、1年生の学生と親子が触れ合う機会を多く設けた。後期はコープ愛知の方から提案があり、1・2月に3回離乳食・幼児食試食会を開催した。コープで販売している離乳食や幼児食を試食したり話を聞いたりした。保護者からは「実際に食べられて良かった」「お土産を選べて良かった」などの声があがった。離乳食に興味のある方が来所し、新規獲得にもつながった。

5. 子育てサークル活動

1. 趣旨

親子のひろばに参加した親子が立ち上げた子育てサークルに、子どもケアセンターを開放し、主体的な活動を手助けし、地域の仲間づくりを支援する。

2. 日程・対象

日程：年間スケジュール参照

時間：10：00～15：00

対象：親子のひろばを終了後、立ち上げられた子育てサークル

3. 活動の概要

親子のひろばの中で交流を深め、立ち上がったサークルが年に数回プレイルームで集まり、メンバーで考えた活動を行っている。今年度は11サークルで始まり、前期後期の親子のひろばを経て、現在は18サークルが在籍している。

子どもケアセンター内の備品を活用し、ハロウィンやクリスマス、お正月などの季節や行事にちなんだ製作や手形足形で子どもの成長を記録するなどの活動が多く行われた。また、プレイルーム内でゆったりと過ごししながら、子育ての悩みや日常の出来事を共有し、相談する場としても活用された。



6. 遊びの交流会

1. 趣旨

学生が地域の親子向けに、遊びの企画から準備や当日の運営をし、地域とのつながりを深めるとともに企画力、調整力、協働する力を身に付ける。

2. 日程・内容

	日程・対象・参加組数	内容
1 回	2024 年 11 月 9 日（土）10：00～12：30 3 歳以上の未就学児とその保護者 71 組	ワクワクこどものくに ～あつめよう、ひみつのたから！～
2 回	2025 年 3 月 1 日（土）10：00～12：00 3 歳以上の未就学児とその保護者 52 組	主役はキミ！ 絵本の世界に飛び込もう

3. 活動の概要

（1）ワクワクこどものくに ～あつめよう、ひみつのたから！～

①概要

4つのテーマからなる『こどものくに』を創った。

『そらいろブース』は、雲、雨、雷、虹など天気の違いを、遊びながら味わうことができる空の世界。子どもが雨を避けながら飴をキャッチするゲームをしたり、雷様に遭遇したりしながら、最後には虹の橋を渡り、晴れになるストーリー性のある遊びを展開した。

『どうぶつの森ブース』では、学生が森の動物に扮し、子どもたちを出迎えた。子どもは動物たちのお手伝いをするというミッションで、くるくるボール運びや大型コリントゲームに挑戦した。

『海賊船ブース』は船上の戦いがテーマ。子どもたちが入ると、すぐに悪い海賊が宝を奪いにやってきて、緊張感のある遊びの始まりとなった。スリルを楽しむ子もいれば、悪い海賊の登場に驚く子もいたが、学生の助けを借りながら、力強く戦う子どもの姿がみられた。

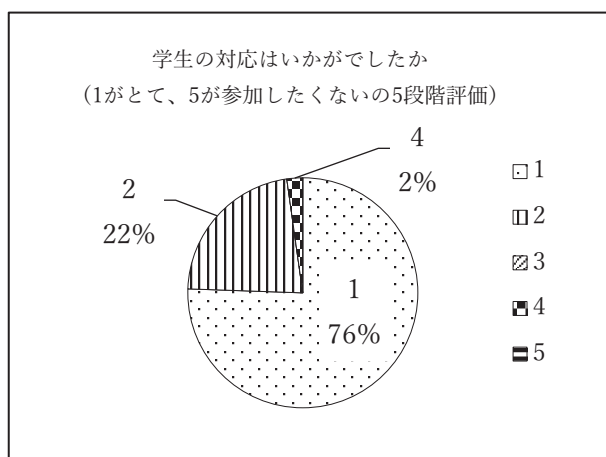
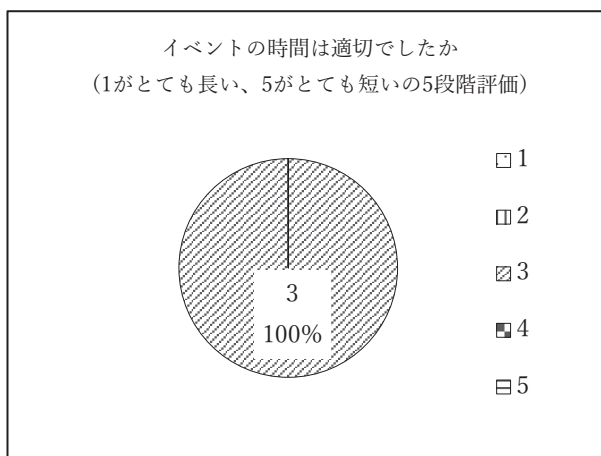
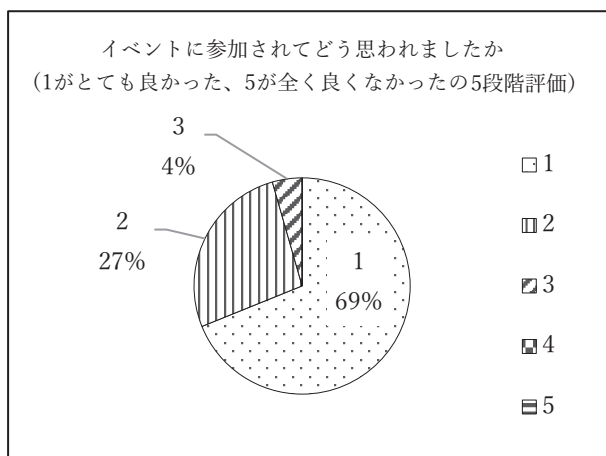
『宇宙ブース』では、オリジナルロケット製作を行った。作ったロケットは飛ばして遊んだり、宇宙船のエンジンに乗せたりできるようにした。トロッコを装飾した宇宙船がイルミネーションの中を走り抜けた後は、ブラックホールに落ちずに地球まで帰れるよう学生が手助けをしながら、最後まで宇宙空間を楽しめる工夫を



した。

子どもたちは全部のブースで遊ぶとメダルがもらえる。メダルが4つ集まると『こどものくに』の王冠がもらえて、王冠にはメダルを貼ることができるようにした。王冠を被って嬉しそうに帰る子どもやメダルを大切に持って帰る子どもの姿がみられた。

②参加者アンケートより



- ・一つ一つの作り物も可愛らしく、ワクワクする内容ばかりだった。毎回楽しみに参加させてもらっている。
- ・とても手の込んだイベントで、楽しめた。普段やらないような遊びをさせていただいて、子どもの成長を感じた。
- ・家や、小さい子が集まった時にやってみたいと思う遊びもあって、参考になった。
- ・学生のみなさんがにこやかで、待っている間や移動の時も話しかけてくださって良かった。
- ・学生のみなさんのアイデアが詰まった、とても楽しいイベントだった。遊び道具や装飾、テーマごとの衣装まで手作りで、学生のみなさんが子ども達を楽しませようという熱量が伝わってきた。

（２）主役はキミ！絵本の世界に飛び込もう

①概要

子どもたちにとって身近な『絵本』をテーマに遊びを考えた。遊びの題材にする絵本選びから始まり、各絵本の出版社に著作物使用許可を取ったり、絵本の世界やストーリーを活かした遊びを考えたりと試行錯誤しながら企画、準備に取り組んだ。

金魚になった学生を探し出す遊びは『きんぎょがにげた』をモチーフにした。子どもは逃げる金魚を見つけると、首からかけた金魚鉢に金魚のスタンプを押すことができる。

音楽室では『しろくまちゃんのほっとけーき』のホットケーキを焼くシーンを子どもが再現する遊びを企画した。卵を割って、牛乳を入れて、混ぜる動作は本物のボウルや泡だて器を使用した。最後はパンケーキタワーに自分のパンケーキを乗せて学生と一緒に食べる真似をした。学生が「むしゃむしゃ…」と面白く食べる姿をみた子どもからは笑い声も聞こえた。

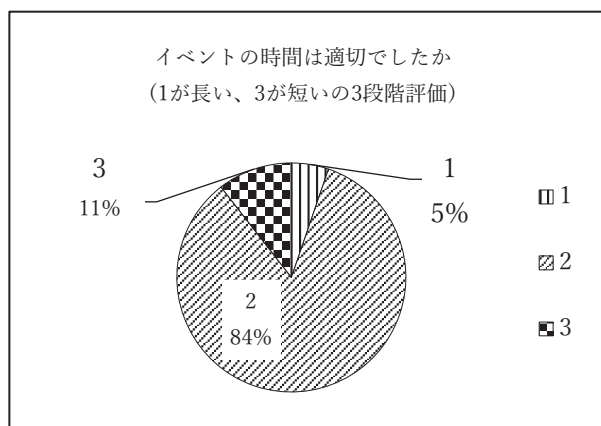
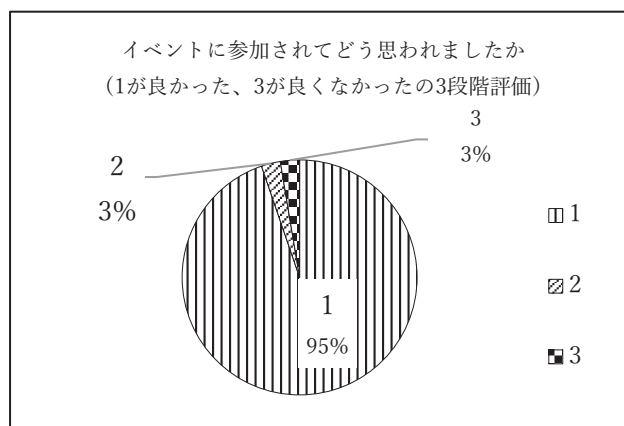
『おべんとうバス』のコーナーではお弁当作りの遊びを行った。作り方の説明をオリジナルの動画で待ち時間に見られるようにした。紙粘土を使ったおにぎりや絵の具を使ってハンバーグのソースを塗るなど、学生のこだわりをたくさん詰め込んだ遊びとなった。

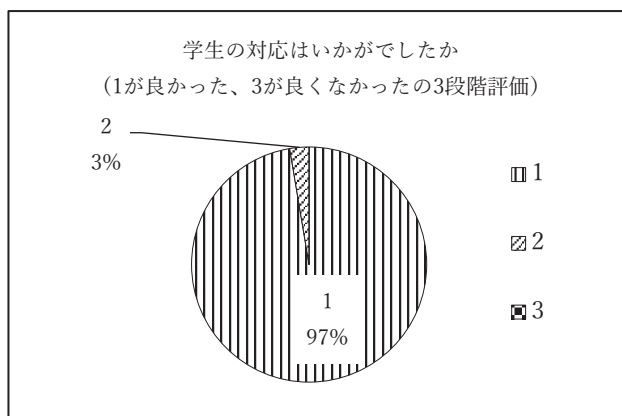
NUAS ホールでは『ぞうくんのさんぽ』の散歩道を作った。子どもたちはぞうの帽子を被り『ぞうくん』になりきって進んだ。またその横では『3びきのこぶた』の遊びを展開した。オオカミにつかまらないように、こぶたのおうちに逃げる遊びを行った。オオカミ役の学生の演技にびっくりする子もいたが、最後は「あちち！」と逃げる様子を楽しむ姿もみられた。

最後にフィナーレで『くれよんのくろくん』の劇を行った。スクリーンを使ってクレヨンたちが絵を描いて見せると、子どもたちから「すごい！」という声が聞こえてきた。最後の紙吹雪の演出では子どもたちの大喜びの様子がみられた。



②参加者アンケートより



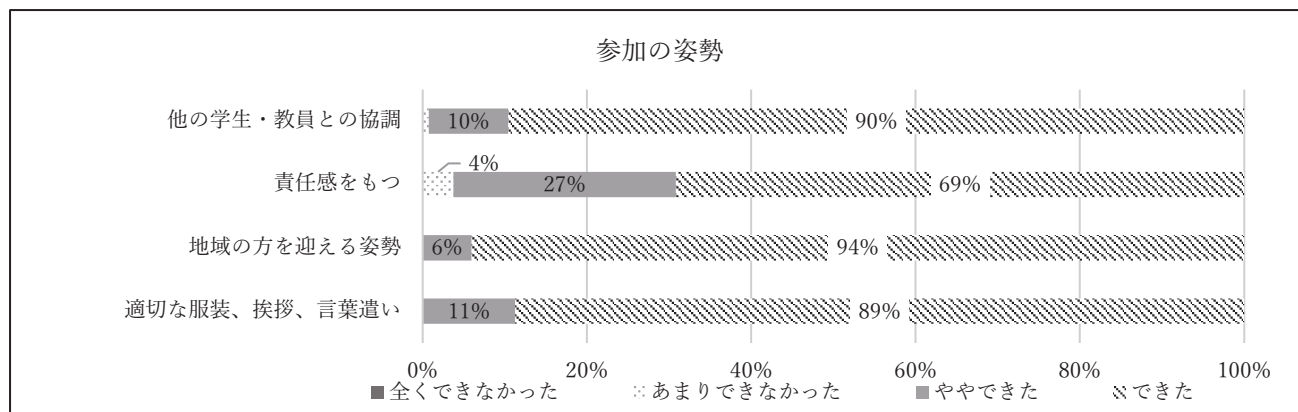


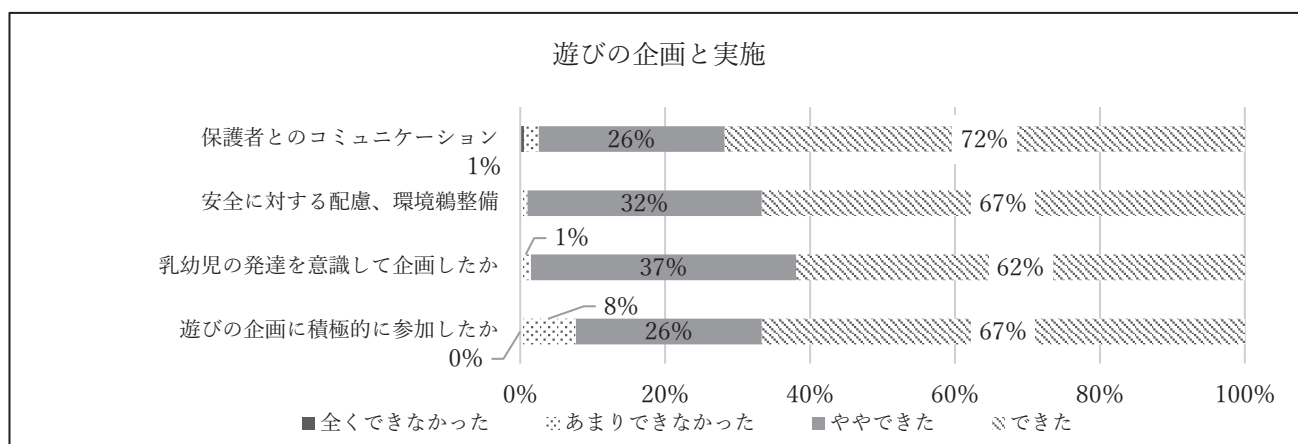
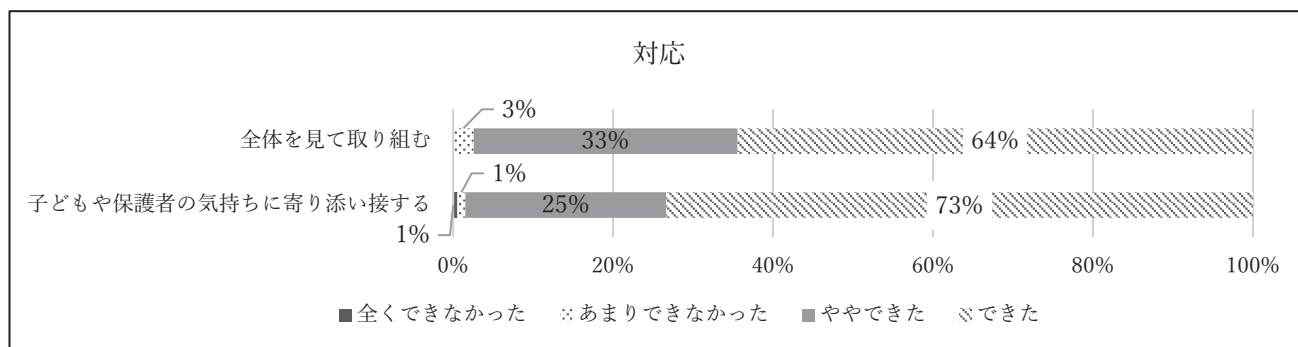
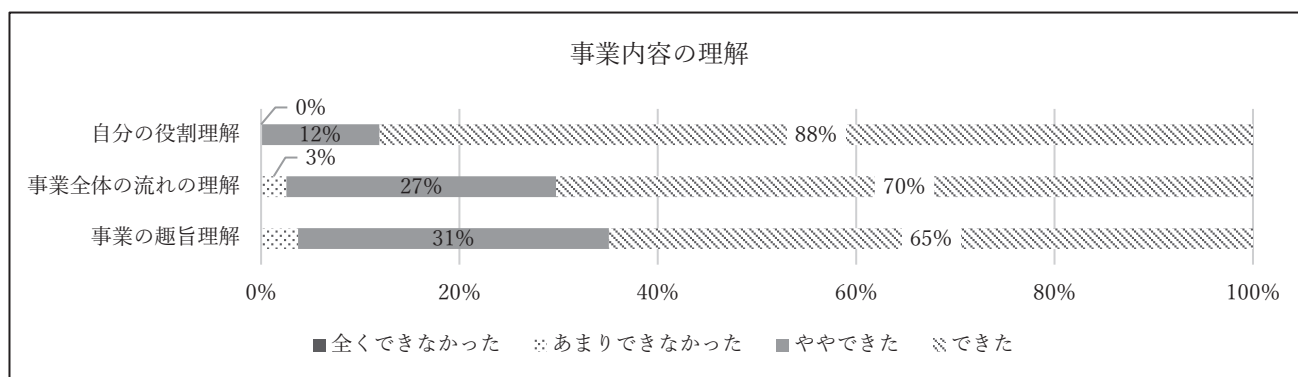
- ・とても素敵なイベントに参加することができて嬉しかった。事前にもらったパンフレットから、子どもも何があるのかイメージすることができて、私も子どもへ説明がしやすかった。
- ・工夫を凝らした楽しい絵本の世界が作られていて、親子共にとても楽しかった。可愛い写真がたくさん撮れた。
- ・お兄さんお姉さんも優しく、イベントも楽しいものばかりで、とても素敵な時間を経験させてもらった。
- ・学生が子どものペースに合わせて声かけをしてくれたのが嬉しかった。
- ・学生の挨拶などの対応がとても素晴らしかった。



【学生振り返りシートの結果】

集計人数：134 人+61 人





7. 心理相談室

名古屋学芸大学子どもケアセンター子ども心理相談室は、2015年6月に開設された。子どもケアセンター（以下センターとする）に併設されており、0歳から就学前までの子どもとその保護者を対象とした相談室である。本年度の個別相談実績を報告する。

1. 子ども心理相談

（1）体制

0歳から就学前までの子どもとその保護者を対象に、発達や育児などに関する相談を受ける。相談員は臨床心理士1名である。昨年度に引き続き、非常勤心理士が相談を担当した。相談枠は、火曜日の午前中（10時～12時）であった。ただし、相談員と相談者（保護者）の予定をその都度合わせながら相談を受け付けた。相談受付は、ホームページおよび電話による申し込みとセンターからの紹介で行った。基本的情報と主訴を聞き取った上で受理面接（初回面接）の予約をし、受理面接後に、継続相談の有無を含めた対応を検討した。受理面接は1回50分、継続面接は1回45分程度であった。

（2）実績

○相談件数

今年度の相談件数は延べ9件であった。今年度受理面接を行ったケースは7件、昨年度から継続して行ったケースが1件、一昨年度に来談していたケースで一度終結したものの再度申し込みをされたケースが1件であった。

9件の相談対象児の年齢別・男女別件数は表1の通りである。相談対象児は、0歳児から5歳児であり、1歳児が4件と最も多かった。昨年度から継続したケースは2歳女児、再度申し込みをしたケースは4歳男児であった。

表1 年齢別・男女別新規相談件数

年齢	男児	女児	計(%)
0歳児	0	0	0 (0.0)
1歳児	4	0	4 (44.4)
2歳児	0	2	2 (22.2)
3歳児	0	1	1 (11.1)
4歳児	2	0	2 (22.2)
5歳児	0	0	0 (0.0)
計	6	3	9 (100.0)

面接には保護者と相談対象児が一緒に来談した場合と、保護者のみが来談した場合、相談対象児が保育園や幼稚園に通っているため保護者と相談対象児のきょうだいと一緒に来談した場合があった。保護者は母親一人か、父親と母親の二人で来談した。

月別の来談者数（延べ数）は表2の通りである。昨年度に比べると年度始めより申し込みがあり、新規相談件数、継続来談件数ともに増加傾向であった。

表2 月別の来談者数(延べ数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	2	2	3	4	3	3	5	5	2	0	0	30

○主訴

相談申し込み時の主訴は表3の通りである。言葉、運動・動き、感情・気持ち、子育ての不安がそれぞれ2件、その他が1件であった。その他の内容としては、子どもの発達の遅れや問題行動に対してどのように関わればよいか、必要な支援が何か教えてほしい、というものだった。

児童館などで見かける他の子どもと比べて、我が子の発達が遅れているのではないかと不安を感じて来談した保護者が多かった。また、子どもへの関わり方を工夫していても困り事が解決せず、終わりが見えないと感じて疲労困憊している保護者も多かった。

表3 申込み時主訴

内容	人数
言葉	2
運動・動き	2
感情・気持ち	2
対人関係	0
集団生活・友達関係	0
日常生活習慣	0
子育ての不安	2
その他	1
計	9

○相談形態・内容

相談形態は、相談対象児やきょうだいが来談した場合には親子同室とした。来談経路は表4の通りである。センターの事業などで知ったケースが5件と最も多く、次いで市の広報などを見たケースが2件、他の施設から勧められたケースが1件、その他が1件であった。その他は、他の支援機関に設置しているチラシを見たとのことであった。

センターの事業に参加している保護者の中には、子育てに不安を抱えている方も多く、心理相談室の紹介をすることでつながったケースもあった。センター内で心理相談室の紹介をすることで安心して相談できる環境を提供することができたと考えられる。中には、子どもの問題行動によって他の親子と関わることに抵抗感のある保護者でも、センター内での行事には積極的に参加している場合があり、センターと相談室を柔軟に行き来できるようにすることで、より保護者が安心して相談したり子どもと過ごしたりできる場の提供につながったと思われる。また、広報活動として、昨年度と同様にチラシを相談者が自由に手に取れるように設置した。実際にチラシを見て相談につながったケースもあることから、今後もセンター内外での広報を続けていきたい。

表4 来談経路

内容	人数
センターの事業などで知った	5
市の広報などを見た	2
他の施設から勧められた	1
友人・知人から聞いた	0
ホームページで知った	0
その他	1
計	9

○方針

来談した9件の今後の方針を表5に示した。子どもの特徴理解や今後の見通しを伝えることを通して保護者の不安を受け止めることで気持ちが落ち着き、1回もしくは数回で終結するケースが多かった。発達のフォローが必要と思われる場合には、関係機関の紹介をした。子どもが遊べる場や母親同士がつながれる場としては、当センターの事業を伝えた。

表5 今後の方針

継続	2
終結	3
1回のみ	4
中断	0
電話のみ	0
計	9

継続ケースは、発達遅れや発達特性の影響によって、子どもの問題行動がすぐには解決せず、保護者が関わり方を深く悩むケースであった。子どもの様子について経過観察しながら関わり方についてのフォローを行い、適宜他機関の利用を含めて必要な支援について検討していくこととした。

8. 学生の子どもケアセンターの活用

1. ボランティア活動

(1) 趣旨

子どもケアセンターで行う子育て支援事業に学生が積極的に関わることにより、理論と実践を統合させる機会とする。

また、体験を通し、『子どもと触れ合う心構えを学ぶ』『子どもに安心・安全な環境づくりを学ぶ』『子どもの心に寄り添う術を学ぶ』『保護者の思いに触れ、子育て支援の大切さや子育て相談のありようを学ぶ』などの機会とする。

(2) 実施概要

～授業の空き時間を使った主体的な取組～

項 目	概 要
親子との 触れ合い 体 験	自由開放において、親子との触れ合いを経験したり、親子との関わりを見聞きしたりすることにより、子どもの理解を深めたり、保護者との関わり方を学んだり、子育てへの思いなどを理解したりするもの。
託児の補助	親子のひろば・親力アップセミナーの参加者の子どもを、保護者が講座を受けている間、保護者とは別室で保育者と共に託児をするもの。
あそぼう会の 補 助	親子であそぼう会の事業に、補助という位置付けで参加し、環境を整えたり、親子の対応をしたり、安全確保をしたりするもの。

※ねらい、具体的学び、手順は別表①参照

(3) 実績

親子との触れ合い体験		託児の補助		あそぼう会の補助	
53 回	105 人	23 回	136 人	8 回	21 人

(4) 成果

- ・直接、親子に関わることにより、子どもの具体的な姿（重さ、声の大きさ、コミュニケーション能力、全身の動きや手指の操作など）から、子どもの発達の経過を理解できた。また保護者の言葉掛けの仕方などから子どもに関わる際のヒントを得ることができた。
- ・授業で学んだことを、目の前の親子と照らし合わせることで、理解を深めたり、再確認をしたりすることができている。さらに、授業で学んだことを踏まえ、自分なりにねらいや目標をもって親子に関わり、振り返りを行うことで次へのステップアップにつながっている。
- ・他の学生と一緒に参加することにより、親子への様々な対応の仕方を見聞きすることで、自分自身の保育の視野を広げる機会となっている。

(5) 学生の振り返りシートより

①子どもと触れ合って勉強になったこと・関心をもったこと

- ・赤ちゃんの抱き方について学ぶ事ができた。右手で首を支えて、足からお尻まで左手で支えることで安定しながら抱くことが出来た。(2年)

- ・初めてのオムツ替えを体験させてもらったのが一番印象的だった。実は初めての体験だったのでオムツやズボンを履かせる時に足が抜けてしまわないかなと、とても不安だった。(2年)
- ・子どもが色水をスコップですくって遊んでいる時に、私は小さなボトルに水を入れて満タンになったら出すという行動を何気なくやっていたが、水がボトルに入る際に空気が出てポコポコとなっているのを子どもが見つけ、興味を示していた。自分のしていた遊びをよそに私のしていた遊びと一緒にし始めたので、子どもは本当にささいなことに興味を示すのだと実感した。(2年)
- ・言葉が話せなくても、視線で行きたい方向や興味のあるものを伝えたり、動きを真似し合ったりすることでコミュニケーションが取れることを学んだ。(4年)
- ・子どもの目線や指さす方に一緒に関心に向けて、声掛けをしていくと段々とお話をしてくれるようになったので、無理に話し掛けたりおもちゃを提供するのではなく、子どもの興味に合わせてゆっくり関わっていくことが大切だと勉強になった。(2年)

②親子の様子を見て学んだこと・関心をもったこと

- ・どの子どもも安全地帯として保護者の方に駆け寄る姿を見て、愛着形成が目に見えて分かり学びを実感することができた。(2年)
- ・保護者と離れて、慣れない環境に戸惑い泣いてしまう子どもも、再び保護者が現れたら落ち着いて笑顔になっていたので、愛情と信頼で強く結ばれているのだと改めて分かった。(4年)
- ・沢山泣く子どもで大変申し訳ないと保護者に言われていたが、申し訳ないと思わせなような、預けて良かったと純粋に思ってもらえるような言葉をもっと掛けられたら良いなと思った。(2年)
- ・保護者の子どもへの声掛けがとても勉強になった。寒天遊びでは「プルプルだね！気持ちいいね！」水鉄砲だと「冷たい！」「涼しくなったね！」など子どもの感じていることを言葉にして伝えていた。それもワンパターンではなく色んな表現をしていて、こんな声掛けもあるのだと学んだ。(1年)
- ・自分の担当していた子どもが保護者のもとに戻った際、託児中よりたくさん声を出して保護者とコミュニケーションをとっていた。密接な関係にある大人とその他の大人とでは、信頼感や安心感が全然違うのだと実感した。(3年)
- ・保護者がいるからこそ、積極的に遊びを探し回る姿がみられた。子どもの様子をすぐく見ていて、周りへの配慮を強く感じた。(3年)

③今後、学びを深めたいと思ったことや身に付けたいと思ったこと

- ・子どもだけでなく保護者との関わり方と遊びの場での子どもの動線や遊びの邪魔にならない立ち位置を身に着けたいと思った。(1年)
- ・子どもが遊びに行けるには親という安全地帯があるからこそ思い切り遊びに行けるということを、知識だけでなく体験を通して学ぶことが出来た。(3年)

- ・緊張している子どもに対しての声の掛け方の工夫をもっと身に付けたいと思った。(3年)
- ・保護者のところに行きたいと何度も伝えてきたが、まずは常にその気持ちを受け止めていくことが大切だと思った。子どもの気持ちに寄り添い、今子どもはどのような気持ちなのか、どんな思いでその行動をとっているのかといったことを、子どもと関わる中で考え、より子どもが安心して過ごせるように関わり方、言葉がけを工夫することが必要だと改めて感じた。(4年)
- ・親子と一緒に関わるという経験がほとんどなく、難しかったと感じたので、保護者が子どもに関わる関係も大切にしながら寄り添い、一緒に遊ぶことをこれからも体験していきたいと思った。(3年)
- ・無理に関わらずとも、そばで見守り保護者との会話の中で子どもたちもだんだんと距離を縮めてくれたように感じたので、実習でもその子どものペースに合わせ距離を縮められるようにしたいと思った。(3年)

④その他（気付いたこと等）

- ・元気に遊ぶ子ども、落ち着いている子どもなど、今日だけでも様々な子どもの姿を見ることができ、それぞれの学生も一人一人に対して違う関わり方をしている姿を見ることができた。もっと自分の担当になった子どもの表情や目線などを瞬時に捉えて、より良い関わり方を考えられるよう、自信をもって取り組みたいと感じた。(4年)
- ・ボールを取るのに必死で頭を毎回ぶつけている事に気づかず、保育者が手で自然に防いでいるのを見て気付いたので、もっとよく見て自分で気付けるようにしないとけないなと思った。(2年)
- ・保育者が遊びを提案する時に声や手だけではなく、全身で楽しさを表していて子どもがより興味をもつことができたと思った。(1年)
- ・保育者が保護者に日常会話をしているのを見て、何気ない会話をすることで信頼関係を築き、悩みや不安を話しやすい関係を作っているのではないかと感じた。(3年)

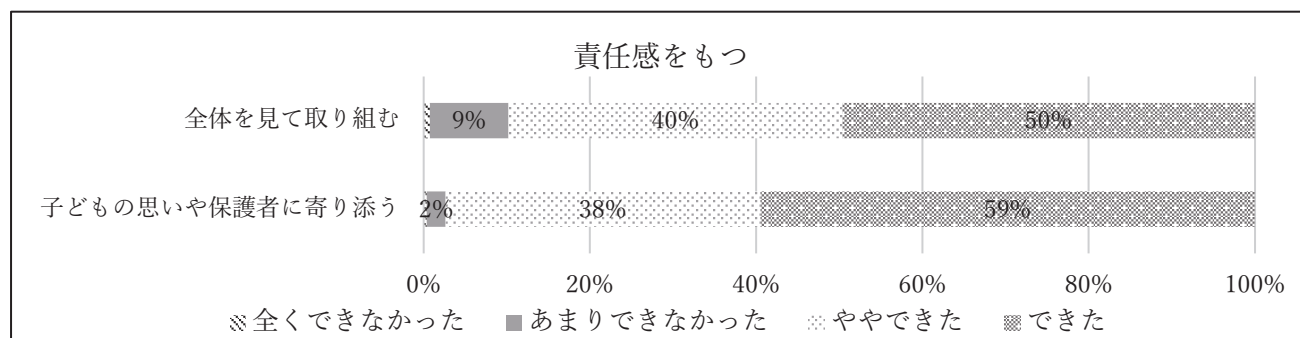
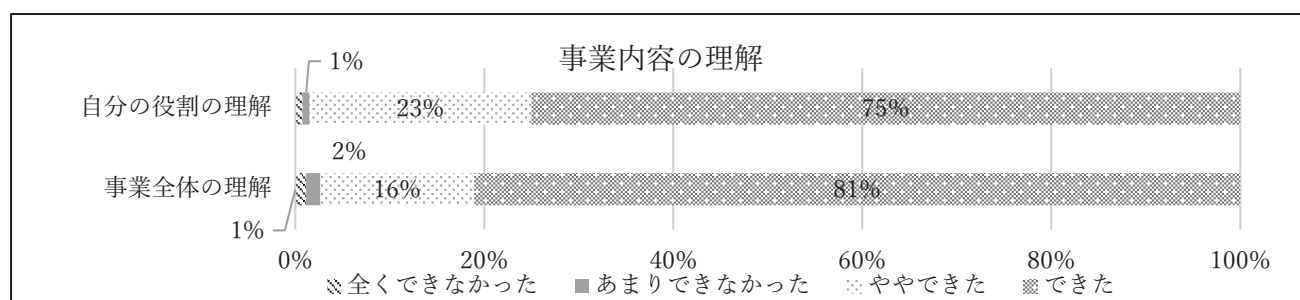
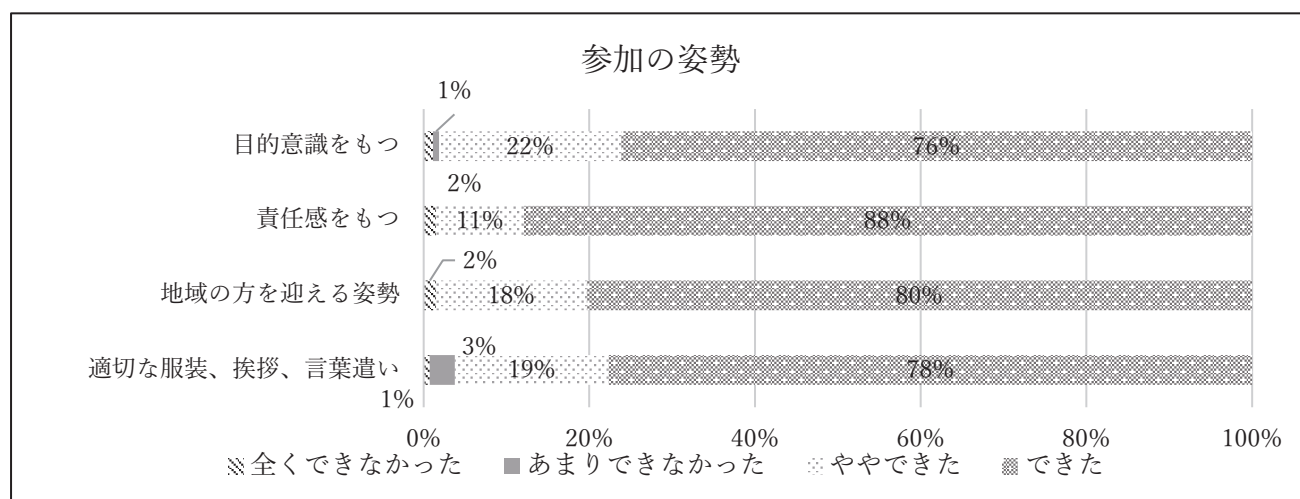
⑤本日参加してみて、保育者に質問、相談などはありますか？

- ・絵本を出し 2 ページほど一緒に読むとすぐ次の絵本を出すことを 4 冊ほど繰り返ししており、出した絵本をしまうとまた取り出していた。読まないけど繰り返し本を出す行為はどのような意味があるのか、またその時どのような援助方法があるのか教えていただきたい。

⇒低年齢の子にとって絵本は大人に読んでもらったり、やり取りを楽しんだりするもので、自分で最後までめくって見ることはほとんどない。この時は絵本の中身に興味があるのではなく、玩具のひとつとしてめくこと、取り出すことを楽しんでいた。保育者はその時に子どもが何を楽しんでいるかを見極めて共感し、危険のないように場を整えたり、取り出すことが好きなら同じように遊べる玩具を次に用意したりしている、と話した。

- ・スロープや外にどうしてもいきたいという子がいて、私は「あっち行きたいよね、楽しそうだもんね、だけど行けないんだ。ごめんね。」と言いながら行ける最大限のところまで抱っこをしながら一緒に眺めていたが、どうしても行きたい気持ちが強く、泣き出すことがあった。意識を別に向けようと、さっきまで遊んでいたおもちゃを差し出してみても要らないという素振りを見せて泣き止まない時間があった。このような時どのように対応をするのが良かったのか？

⇒この子ども自身が2歳前ということで、イヤイヤ期に入り、こだわりが強かったり、切り替えることが苦手だったりする部分がある。保護者の関わり方が、子どもの言うことや要望を聞いてあげていることがほとんどなので、子どもも思いを通そうとするが、安全面を第一に考えた関わり方で良かったことを伝えた。思いに寄り添って同調したり、別に意識を向けようとすることで気持ちが切り替わったりすることもあるということを踏まえた関わり方を意識することを話した。



2024年度 学生の子どもケアセンターでのボランティア活動について

	ねらい・学生の学び	手順・時間帯等
親子との触れ合い	ねらい：親子の様子を観察したり、一緒に遊んだりすることにより、子どもの理解を深めるとともに、保護者の声を直接聞き、子育ての思いなどを理解する。 具体的学び：遊具や玩具の特徴や遊び方を子どもの姿を通して知る。 ：子どもに対する保護者の関わり方を見て、言葉掛けや対応の仕方を知る。 ：保護者の声に耳を傾け、保護者の思いや気持ちなどを知る。	事業：「自由開放」 申込み：前日までに記入 時間帯：9時40分～11時10分 持ち物：エプロン、名札 参加条件：すべての学生
託児の補助	ねらい：子どもの理解を深めるとともに、子どもや保護者の対応、親子関係などについて学ぶ。 具体的学び：各月齢、年齢の子どもの姿（身体の状況、身体活動、手指操作、言語、表現、認識、社会性など）を知る。 ：子どもの状況に応じた対応の仕方（遊びの対応、水分補給、睡眠への導入、おむつ替えなど）を知る。 ：親子関係（抱っこの仕方、泣いたときの対応、子どもの表情、親の表情、思いや気持ちの受け止め方など）を知る。	事業：「親子のひろば」「親力アップセミナー」 申込み：事業日の3日前までに記入 時間帯：9時40分～11時10分 持ち物：エプロン、名札 参加条件：「実習」または「親子との触れ合い」のどちらかを経験済みの学生
親子であそぼう会の補助	ねらい：各年齢に応じた遊びの設定、環境（人的、物的）設定、安全への配慮、親子への対応の仕方などについて学ぶ。 具体的学び：各年齢に見合った遊び、玩具や道具の数量や配置の仕方を知る。 ：各年齢に相応しい場の広さ、距離などの物理的環境、季節や気候などの環境の活かし方を知る。 ：親子の関わり方を知る。 ：人的環境としての保育者のあり方を知る。	事業：「親子であそぼう会」 申込み：事業日の1週間までに記入 時間帯：9時40分～11時10分 事前打ち合わせ・反省会：学生の空き時間 持ち物：エプロン、名札 参加条件：「実習」または「親子との触れ合い」のどちらかを経験済みの学生

2. 授業における活動

『子どもケア基礎演習』

(1) 趣旨

『まずは子どもケアセンターを知ろう』という趣旨の体験型教育プログラムである。

授業と連動した取り組みで、子どもケアセンターの施設を見学し、事業内容を理解する。

(2) 実施概要

①子どもケアセンターで実施している子育て支援事業の概要説明

②学生の子どもケアセンター活用の概要及び実施手順の説明

③プレイルームの見学

(3) 実績

対象：幼児保育専攻1年生

受入れ回数：4回

実施日：4/25・5/16・6/6・7/4

『保育職キャリアデザインⅠ』

(1) 趣旨

保育者として働くというイメージを具体化するために、子どもケアセンターでの実践を撮影したのち、乳児やその保護者と保育者のかかわりを観察したり親子とのふれあいを体験したりして、『保育職を体感する第一歩』とする。

(2) 実施概要

①子どもケアセンターの見学や保育実践映像の視聴を通し、子どもや子どもと関わることについて理解する。

②子どもケアセンターでの『親子ふれあい体験』『保育者体験』を通し、保育者に対するイメージを具体化する。

③振り返りレポートの作成やグループディスカッションにより、『子ども』『保育者』に対する理解を深める。

(3) 実績

対象：幼児保育専攻1年生

受入れ回数：自由開放9回

実施日：4/30・5/14・5/17・5/28・5/31・6/11・6/14・6/25・7/2

『保育・教職実践演習』

(1) 趣旨

学生が4年間の大学での学びを元に、小グループで指導計画を立案する。子どもケアセンター事業に参加する親子を対象に遊びの実践を行うことで、子どもとのやりとりのタイミングや間合いなどを身に付けるとともに、子育て支援に対する理解を深める。

(2) 実施概要

①日程調整及び当日の参加者の状況（子どもの年齢、参加組数など）を子どもケアセンタ

ーから伝達

②学生から遊びの素案の提出及び確認

③それぞれの事業（親子のひろば、自由開放）のお楽しみタイムにて演習

（３）実績

受入れ回数：６回

実施日：10/30・10/31・11/1・12/6・12/10・12/19

3. 成果

子どもケアセンターの子育て支援のあり方や学生のセンターの活用方法などを理解したのちに、プレイルームを見学したり実際に親子と関わったりした。学生たちは、おもちゃを手にとったり、保育士に質問したりして、子育て支援施設としての工夫などを体験的に学ぶことができた。このような学習を経て、学生たちは子どもケアセンターや参加親子に、より興味や親しみをもつようになる。実際に、プレイルームをのぞき込んだり、参加親子にアプローチしたりする姿が見られた。また『触れ合い体験』を経て『あそぼう会の補助』『託児の補助』へと、積極的に親子と深く関わる活動に参加するようになる。

9. その他

1. 子ケア通信の発行

(1) 趣旨

- ・大学のもつ専門性を活かした子育て情報の発信のひとつとする。
- ・子どもケアセンターの事業の実施状況を広く、地域の子育て家庭、大学の教職員及び学生に発信していく。
- ・子育て家庭、大学の教職員、学生が、子どもケアセンターを媒体にして相互に積極的に関わる機会とする。

(2) 発行

14号－令和6年9月

特別号－令和7年1月

15号－令和7年3月

(3) 内容 ※別紙参照



子ケア通信

第14号

発行：令和6年9月
発行者：名古屋学芸大学
ヒューマン学部附属
子どもケアセンター

～ 子どもケアセンターとは ～

地域の子育て中の親子、名古屋学芸大学の学生・教職員など、多彩な立場の人が、互いに集い、互いに育ち合える子育て支援の場です。

日進市の子育て支援センター事業の委託を受け、4歳未満のお子さんと保護者の方とが集える場・子育ての情報交換の場として「親子のひろば」「親子であそぼう会」「遊びの交流会」「自由開放」、保護者の方の子育て力を支える「親力アップセミナー」を開催しています。その他、「自主的な子育てサークルを支える事業」「子どもの発達上の心配や不安に対応する心理相談」も実施しています。



“わらべうた”の魅力

8年前、私にとって初めての姪ができました。赤ちゃんを間近でじーっと観察するのは初めてで、こんなにかわいいものかと子守を喜んで引き受けたものです。

私の職業柄、妹に赤ちゃんと遊べるあそびはないかとよく聞かれました。「いっぽんばしこちょこちょ」「そうきん」「パン屋さんにおかいもの」など“わらべうた”や“手あそび”と呼ばれるあそびをいろいろと伝授し、妹は毎日のように姪の顔に触れたり手や足を動かしたりしながら遊んでいました。ところが、次に会うと1フレーズ歌詞が抜けていたり、メロディーが変わっていたりするのです。でも、それでよいのです。本来、“わらべうた”とは、子どもの口伝えによって歌い継がれてきたあそびです。歌詞やメロディーは、伝える人や生活などによって作り変えられてきたのです。今では便利な「楽譜」や「動画」がありますが、あまり“正確さ”にこだわらず、お子さんとのコミュニケーションを楽しんでください。お子さんが大きくなってから一緒に歌詞をアレンジするのも楽しいですよ！



センター次長
岡田 暁子

～職員紹介～

センター長	加古 有子	センター次長	岡田 暁子	事務職員	成田 尚子
臨床心理士	茂苅 梓				
保育士	高崎 あゆみ	小山 和佳奈	藤田 真以		
	菅澤 晃子	楠井 有希	門 あかね		



2024 年度 前期事業の紹介

親子であそぼう会

「親子で散歩を楽しもう！」 4月12日



天候にも恵まれ、親子で手を繋いで普段はなかなか入ることができない大学構内に春のお散歩へ出かけました。どんぐりを拾って散歩バッグに入れたり、タンポポやしゃくとり虫を見つけて大喜びしたり、丘を上ったり下りたりして楽しんだり、思い思いに遊んで、笑顔いっぱいのお子さんたちでした。こいのぼり製作では、自分の好きなように紙コップにうろこのシールを貼って自分だけのこいのぼりも作りました。

～参加者の感想～

- 安全が確保され、季節を感じられる散策、製作ができて盛り沢山の内容でした。
- しっかり見てくださる方が多くみえて安心してお散歩できました。また、色々な場所へ行けて発見も多く、子どももとても楽しそうでした。
- みんなで道路を渡ったり、移動したりと少しだけ集団行動ができて良かったです。
- 自然がいっぱいの大学構内をお散歩できて、親子共々楽しかったです。



「1歳のお友だち集まれ」 6月27日



今年はプレイルームとスロープ横に遊び場を作り、親子でたくさん体を動かしました。プレイルームにはブロックマットの滑り台、ゆらゆらトンネル、くねくね道など、上ったり滑ったり、歩いたり、揺られたり、いろいろな体の動きを楽しみました。

スロープ横にはボールプールを設置し、ボールを投げたり転がしたり、探してつかんだりして、ボール遊びを楽しみました。ゆったりとした時間の中で、どのお子さんも体を自由に、のびのびと動かして遊べたようです。

～参加者の感想～

- 体を使う遊びとおもちゃ遊びと両方あったので飽きずに遊べたと思います。
 - 同じくらいの子が多くて安心して遊べました。
 - 児童館とは違い体をのびのび動かして良かったです。
 - いつもとは違い、運動系の遊具が置いてあってとても楽しそうでした。
- 同じ1歳同士の子ばかりだったのも安心でした。





「親子で水遊びを楽しもう」 7月17日、19日



(1歳児、2歳児)

屋外に移動して、じょうろや水鉄砲で的をあて、手作りスライダーやタワー、水車、ボールすくいなど今回もたくさんのおもちゃに囲まれて、親子で水に触れて遊びました。色水遊びでは、赤、青、黄の三色の色水をコップに入れてジュースに見立てたりスライダーやタワーに流したり、二色を混ぜて変化する色の不思議さに興味をもったりと、思い思いに楽しんでいました。

今回初の試みの寒天遊びでしたが、両日ともに大人気でした。ひんやりぷるぷるな寒天に、お父さんお母さんお子さんも夢中！初めはおそろおそろ寒天をつついてみるお子さんが多かったのですが慣れると大胆にクラッシュし、何とも言えぬ触り心地に思わずこぼれる笑顔。細かく砕いて容器に詰めたり、型抜きをしたりする姿がみられました。暑さに負けず、風鈴の音とともにお子さんたちの朗らかな声が響きわたっていました。

～参加者の感想～

- ・様々な遊びがあって楽しめたし、私自身もいろんな手作りおもちゃを知れて、とても楽しい時間でした。
- ・寒天遊びに夢中で、他の遊びにはここまで集中することはなかなかないので、新たな一面が見られて良かったです。



親力アップセミナー

「親子で楽しむ音楽体験～手遊びからクラシックまで～」 7月5日



聴きなじみのある演奏をピアノのそばまで寄って聴き、ほっこりした親子さん。「ピアノさんこんにちは」ではピアノを覗いたり、ピアノの音の変化を聴いたりしました。岡田先生のピアノ演奏に合わせての「はらぺこあおむし」の絵本は、緩やかなメロディーと歌声によって大小のはらぺこあおむしの人形も登場！子ども達もリズムによって揺れたり歌ったりする姿がみられました。

「親子で触れ合って遊ぼう」では、色々な触れ合い遊びを楽しみました。中でも“ひつつきもつつき”が声を出して盛り上がるほど人気でした。「親子で楽器と遊ぼう」では普段見慣れた楽器から初めて見る楽器もあり、好きな楽器に触れたり音を鳴らしたり、とても楽しそうな様子でした。

～参加者の感想～

- ・本物の楽器の音や感触を体験できて良かったです。あおむしの歌が特に楽しそうでした。
- ・ピアノの生演奏を聴いたり、ふれあい遊びをしたり、様々な楽器に触れたり貴重な体験をたくさんできて良かったです。



親子のひろば



いす組(0歳児)・あひる組(1歳児)



同じ年齢の子をもつ保護者同士で、子育てについて話したり、ゲームやおもちゃ作りでリフレッシュしたりする全5回の連続講座です。

1回目	子どもケアセンターに慣れよう
2回目	自己紹介ゲームをしよう
3回目	子育てについて話してみよう
4回目	センサリーボトルを作ろう ほっと一息ティータイム
5回目	サークルを立ち上げよう



今年度は『〇〇ちゃんのパパ』という呼び方にならないように自分の呼び名を紹介し、名札をつけてスタート！

2回目はお題が書かれた自己紹介カードを使って、母としてではなく“自分”のことを話してもらいました。学生時代に戻ったように話に花が咲き、盛り上がっていました。

3回目の「子育てについて話してみよう」では、「偏食・食べムラの悩み」や「子どものイヤイヤ、自己主張等への対応」などについて、情報交換をしました。

4回目は毎回好評のセンサリーボトル作り。家ではなかなかできない活動に皆さん夢中になって取り組んでいました。その後のティータイムでは皆さんニックネームで呼び合いながら、お子さんから離れ、つかの間の大人時間。今季も3つのサークルが誕生しました！



～参加者の感想～

- ・毎回、楽しく過ごすことができました。託児で子どもと離れる時間があつたので普段とは違う子どもの姿がみられたり、私自身のリフレッシュの時間になったりしてありがたかったです！
- ・手作り玩具づくりでは家だと準備や時間の確保がなかなかできず、その時間を作っていただけて嬉しかったです。子どもも喜んで遊んでいます！
- ・日常で子どもと離れる時間がない中で、安心して預かってもらえてありがたかったです。これから子どもたちを支えてくれる学生さんの力にもなれていたらなと思っていました。
- ・保育士さんが親身になって、サポートしてくださって、本当にママにも子どもにも必要な時間だと思いました。こういったものが、一部のママさんだけでなく、たくさんの方に広がっていくといいな、と思いました。



※お問い合わせ先※

TEL 0561-75-2225

URL <https://www.nuas.ac.jp/ccc/>

様々な事業の開催日程はホームページよりご覧ください



Instagramも
チェックしてね♪



@KIDOMOCARECENTER



子ケア通信

特別号

発行：令和7年1月
発行者：名古屋学芸大学
ヒューマン学部附属
子どもケアセンター

託児とは・・・

託児ってどんなシステムだろう…と思っている方もいらっしゃると思います。今回は、子どもケアセンターの託児について説明します。

子どもケアセンターには、親子のひろば、親力アップセミナーという事業があります。その事業中に1時間ほどお子さんをお預かりします。また、保育について学んでいる本学の学生が自主的な学びのため、保育士のサポートの下、お子さんを抱っこしたり、おもちゃで遊んだりと直接関わります。

① 託児の聞き取り（保護者と保育士）

事前にお渡しした託児カードを基にお子さんの様子を話します。

～体調面、眠たくなるか、好きなおもちゃ、気を付けてほしいことなど～



② 保護者は、講座の行われるお部屋へ お子さんはプレイルームで遊びます。

事業名：親子のひろば ありら		託児カード		名古屋学芸大学ヒューマン学部附属 子どもケアセンター	
〇以下のことをご記入いただいた後、保護者付に提出させていただきます。					
お子様の氏名	年齢	性別	月	日	年
お預けのおもちゃ・遊び（例：おもちゃ、絵本、ブロック、積み木など）					
服装、食事情報、おむつ替え、体調などについて、教えてほしいこと					
その他気を付けてほしいこと (例：つかまり立ちを始めためてほしいようにしてほしい、手が離れやすいなど)					



③ 託児の様子（講座中）

講座の合間に、お子さんがどのような様子なのか保育士から聞きます。（親子のひろば限定）



④ お子さんとの対面

荷物を入れてからお子さんのところへ戻ります。託児をした保育士、学生から託児中のお子さんの様子を聞きます。学生は、保護者の方と関わったことがほとんどありませんが一生懸命話しますので、聞いてくださいね。



このような流れになります。保護者の方と別れる際は「バイバーイ！！」と手を振るお子さんもいれば、寂しくて泣けてしまうお子さんもいます。しかしずっと泣いているわけではなく、保育士・学生がやってみた遊びに反応したり、遊びだしたり、お友だちの様子をジッと見たりとお子さんによって様々です。心配でしたら保護者の方のところへお連れすることもできます。

お子さんと離れて、他の保護者の方とお話したり、講師の話に集中したりとリフレッシュできる機会になればと思っています。

分からないこと、気になることなどがあれば気軽にご質問くださいね。

～手作りおもちゃの紹介～

センサーボトルの作り方

- ① どういうものを作りたいか、イメージをする
(例：クリスマス、海、空、子どもの好きな色など)
- ② 好きなパーツを選ぶ(ラメ、ビーズ、ビー玉、スパンコール)
ラメやスパンコールなど入れすぎると濁るので少量ずつ入れる
- ③ 水と水のりを1:1で入れる
 - ・水が多いとさらさら、水のりが多いととろっとするので好みに合わせて入れる
 - ・ギリギリまで液体を入れると溢れるので少し下のラインまでにする
(気泡を作りたい方は液体を減らしても良い)
- ④ 蓋を閉め、ゆっくり上下に振って仕上がりを確認する
 - ・勢いよく振ると泡立つので優しく上下に振る
 - ・調整でパーツ等を足しても良い
- ⑤ 完成したら、ボトルと蓋をボンドで固める
- ⑥ 好きなビニールテープを巻いて完成!! (乾くまで1日かかる)

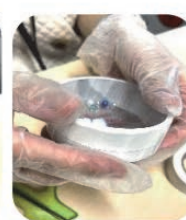


オーシャンドラムの作り方



- ① テープの芯にビニールテープを巻く
- ② 芯の上に接着剤を塗り、プラ板を貼り固める
内側に好きなシール(イメージにあったもの)を貼る

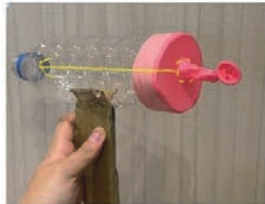
- ③ 好きな材料を入れる
振ってみて音を聴く



- ④ ②と同じように、芯の上に接着剤を塗り、プラ板を貼り固める

- ⑤ プラ板に少し重なるようにビニールテープを一巻きして完成!! (両側)

ペットボトル空気砲の作り方

- 
- 
- 
- 
- 
- ① 500mlペットボトルの底を1cm程度切る
※なるべく綺麗に、真っ直ぐになるように切ると風船を被せる時に破れない
- ② 切った所にビニールテープを貼り保護する ※風船を被せるので破れないようにするため
- 
- 
- 
- ③ 風船を結び風船の先端を1cmほど直線に切る
- ④ ③の風船をペットボトルの底に被せてビニールテープを巻きしっかり固定する ※結び目が中心に来るようにする
- お子さんと一緒に好きな装飾を楽しんでくださいね♡



ぱくぱくごっくんの作り方

- 
- *ペットボトル (2ℓ)、洗濯ネット、布ガムテープ(ビニールテープ)、両面テープ、紐
- 
- 
- 
- 
- ① ペットボトルを好きな位置で切る
- ② 上部に穴を開ける
(物を入れるところになります!)
- ③ 洗濯ネットを逆さに向け、上部を切る
- ④ ペットボトルに両面テープを貼り、洗濯ネットを貼る (縫うとより丈夫になるよ!)
その上から布ガムテープ(ビニールテープ)で留める
- 
- 
- 
- ⑤ 注ぎ口に紐を付けて掛けられるようにする
- ⑥ 中に入れる物は、カプセルやスポンジなど好きな物を準備する
(子ケアではカプセルを使ってる!)
- 



いろいろなおもちゃの紹介

●子どもケアセンターでも使っています！！

ブラブラ人形



段ボール、フェルト、キャップ、紐、割りばしを使って作ります。キャップの良い音が鳴ります。

くるくるレインボー



キットを購入して作れます。回すと風船みたいでキレイです！

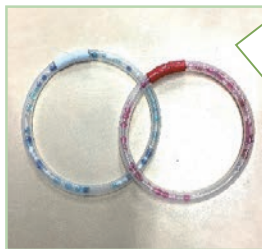
いないいないばあ人形



牛乳パックと布、タオル、毛糸を使って作ります。歌に合わせて遊べます♪

●学生が作りました！！

ホースラトル



ホース長、ホース短、ビーズ、ビニールテープを使って作ります。お子さんが握りやすいです。

ポットン落とし



大きい入れ物、排水溝の蓋、カプセルを使います。中には音の違いを楽しめるようにコーヒー豆や小豆、ビーズなどを入れてみていいですね。

絵本・読書のススメ

プレイルームの奥、畳コーナーの壁にひっそりとたたずむ、保育士おすすめの絵本コーナーはご存じでしょうか…なかなか見つけにくいこちらのコーナーですが、保育士が季節に合わせたおすすめ絵本を紹介しています。子どもケアセンターでも日替わりでたくさんの絵本を用意していますので、お気に入りの1冊をお子さんと探してくださいね。また、畳コーナーには保護者の方向けの本も用意しています。お子さんが寝てしまった時はベビーベッドやクーハンもありますので、束の間の読書タイムをぜひお楽しみください♡



※お問い合わせ先※

TEL 0561-75-2225

URL <https://www.nuas.ac.jp/ccc/>

様々な事業の開催日程はホームページよりご覧ください



Instagramも
チェックしてね♪





子ケア通信

第15号

発行：令和7年3月
発行者：名古屋学芸大学
ヒューマンケア学部附属
子どもケアセンター

～ 子どもケアセンターとは ～

地域の子育て中の親子、名古屋学芸大学の学生・教職員など、多彩な立場の人が、互いに集い、互いに育ち合える子育て支援の場です。

日進市の子育て支援センター事業の委託を受け、4歳未満のお子さんと保護者の方とが集える場・子育ての情報交換の場として『親子のひろば』『親子であそぼう会』『遊びの交流会』『自由開放』、保護者の方の子育て力を支える『親力アップセミナー』を開催しています。その他、『自主的な子育てサークルを支える事業』『子どもの発達上の心配や不安に対応する心理相談』も実施しております。

2024年度 後期事業の紹介

🌸🌸🌸 親力アップセミナー 🌸🌸🌸

「ヨガと瞑想～あいのままを楽しもう～」

ヒューマンケア学部 林麗子先生 10月2日

束の間の時間、お子さんと離れてリフレッシュした時間を過ごせるということで毎回とても人気の講座です。ヨガマットの上で自分と向き合い、呼吸を意識しながら身体をほぐし、日頃の疲れを癒すリラックスした時間。講師の先生の優しい声と共にヨガを通して有意義な時間を過ごしていただけたかと思います。講座後、おうちの方たちのリフレッシュした穏やかな表情がとても印象的でした。

～参加者の感想～

- ・リフレッシュできて本当にいい時間でした。
- ・安心して子どもを預けられてとても贅沢な時間でした。
- ・ひとりの時間を安心して楽しめました。
- ・託児では学生さんや先生方にみていただき、息子も楽しく、私も十分にリラックスできて幸せでした。



「子どもの育ちと愛着形成」

ヒューマンケア学部 藤井真樹先生 12月5日

4歳未満のお子さんをもつ方を対象に、子どもの愛着(アタッチメント)がどのように形成されるのかについて考える講座を実施しました。愛着とは具体的にどのようなものか、アタッチメントスタイル別の行動の違いなど、分かりやすく説明していました。受講者からは「子育ての仕方について不安な点が解消された」「とても有意義な時間になった」「講師の方の伝え方が素敵だなと思った」などの声があり、みなさん充実した時間を過ごしていただきました。

～参加者の感想～

- ・大人の話を聞く機会があまりないので子どもと離れて子どもの事をしっかり学べて良かったです。
- ・愛着という言葉は知っていたが、その詳細や大切さを知ることができました。



「0歳のお友だち 集まれ」 9月4日

6か月から1歳前までのお子さんが集まり、ハイハイや歩き始めなどそれぞれの発達に合わせた玩具や遊具で遊びました。学生や保育士の手作り玩具に興味をもつ子が多く、保護者の方からは家で作ってみたいという声も…（子ケア通信特別号で手作り玩具紹介をしています！ぜひ！）また、月齢ごとのグループ交流では、離乳食、卒乳や後追いの話題が出て、同じ悩みを共有し、和やかに話される様子がみられました。

～参加者の感想～

- ・階段やトンネルなど家ではなかなかできない体を動かす遊びができました。月齢の近いお子さんの存在も刺激になりました。
- ・手作りの玩具がたくさんあって、家でも作ってみようと思いました。



「親子で散歩を楽しもう」 11月13日



今年は残暑が厳しく秋の深まりが遅かったので、どんぐりや落ち葉の生育が心配でしたが、当日は天候にも恵まれ元気に出発できました。大きなどんぐりを探す子もいれば、帽子付きのどんぐりを集める子もいました。葉の下には小さな虫もいて、観察に夢中な虫博士もいましたよ！

～参加者の感想～

- ・普段は入れない大学構内まで入れて、楽しいお散歩ができました。
- ・自然に触れ合いながら、親子やお友だちと体を動かしつつ楽しめました。

「親子でクリスマス会を楽しもう」 12月18日

保育士によるトーンチャイムの演奏に耳を傾けたり、サンタとブーツの製作や紙袋の塗り絵を楽しんだりしました。その後、サンタとトナカイ、雪だるまが登場し、パラバルーンを楽しんだり、サンタからもらったベルのプレゼントに合わせてダンスをしたりして、クリスマスの雰囲気親子共に楽しみました。

～参加者の感想～

- ・製作や歌、踊りなど盛りだくさんで楽しかったです。
- ・子ども達が無理なく楽しめる内容で、クリスマスの雰囲気を楽しめて良かったです。



「親子で節分ごっこを楽しもう」 1月29日



今年のテーマは『楽しくて愉快的な鬼』！鬼のお面の製作では、節分を理解して「いやいやオニだよ」と考えて作る子もいました。みんなで飾りつけをした、大きな鬼に向かって豆まきをしていると、保育士扮する鬼が太鼓やピアノ、スライドホイッスルで『豆まき』を演奏しながら登場。「鬼は外！」と力強く豆まきをして、みんなの心の中にいる鬼を無事追い払うことができました。

～参加者の感想～

- ・家ではできないような遊びができて楽しそうでした。
- ・工作や絵本や音楽などいろんなことを通して節分を楽しめました。



親子のひろば いす組(0歳児)・あひる組(1歳児)

同じ年齢の子をもつ保護者同士で、子育てについて話したり、ゲームやおもちゃ作りでリフレッシュしたりする連続講座です。

1回目	子どもケアセンターに慣れよう
2回目	自己紹介カードを使って仲良くなろう
3回目	子育てについて話してみよう
4回目	センサリーボトルをつくろう ほっと一息ティータイム
5回目	サークルを立ち上げよう



毎回好評な『自己紹介カードを使って仲良くなろう』では好きなカードをめぐっていただき「好きな音楽」「人生で一番行ってよかった所」「最近買ってよかったもの」など、普段子どもがいたらじっくり聞けない内容のお題に答えていただきました。「普段子どものことを話すことが多かったのも、自分の話をしたり聞いたり、大人の会話ができて嬉しかったです」という声も聞かれました。

ほっと一息ティータイムでは皆さんで持ち寄ったお菓子と飲み物で束の間の大人時間。おすすめのお菓子の話や、サークル名はどういう名前にしよう…など、4回目ということもあり皆さんリラックスしながら和気あいあいと話されていました。

～参加者の感想～

- ・少人数制でアットホームな雰囲気でも過ごしやすく、講座の内容もとても良かったです。
- ・託児の様子を詳しく教えてもらえて、今まで知らなかった一面を知ることができました。保育士さんや学生さんが色々な遊びを工夫してくれて、楽しく遊べました。
- ・気が合いそうなママがいてもなかなか連絡先を聞けなかったり、次回の約束ができなかったりと後悔することが多いですが、サークルづくりを促してもらえるのでありがたいです。



遊びの交流会 ～秋・春～

秋の遊びの交流会

「ワクワクこどものくに～あつめよう、ひみつのたから～」 11月9日



そらいろ・どうぶつの森・海賊船・宇宙の4つのテーマからなる『こどものくに』を創りました！

雲、雨、雷、虹など天気の移り変わる様子を遊びにした『そらいろブース』ではストーリー性のある遊びを展開しました。『どうぶつの森ブース』では学生が動物になり出迎える姿が「かわいい！」と子ども達からも好評でした。船上の戦いがテーマの『海賊船ブース』では海賊に宝を奪われたり、戦ったりとスリルのあ

る遊びを子ども達に体験してもらいました。『宇宙ブース』ではオリジナルロケット製作やトロッコを装飾した宇宙船が大人気でした。

最後に『こどものくに』の王冠を子ども達にプレゼントし、学生も子ども達も笑顔で遊びを終えることができました。



春の遊びの交流会

「主役はキミ！絵本の世界に飛び込もう！」 3月1日



子どもたちにとって身近な『絵本』をテーマに遊びを考えました！遊びの題材にする絵本選びから始まり、各絵本の出版社に著作物使用許可を取ったり、絵本の世界やストーリーを活かした遊びを考えたりと試行錯誤しながらの企画、準備でした。

『きんぎょがにげた』『しろくまちゃんのほっとけーき』

『おべんとうバス』『ぞうくんのさんぽ』『3びきのこぶた』の5つの絵本をモチーフにした楽しい遊びが盛り沢山！金魚を探したり、おべんとうやパンケーキを作ったり、お散歩したり、時には学生扮



する迫真の演技のオオカミにびっくりしたり…子どもたちは学生のこだわりをたくさん詰め込んだ絵本に入り込んでまるで気分は主人公！子どもたちの笑い声がこだまして、とても賑やかな交流会となりました。

最後にフィナーレで『くれよんのくろくん』の劇を行いました。スクリーンを使ってクレヨンたちが絵を描いて見せると子どもたちから「すごい！」という声が聞こえてきました。最後の紙吹雪の演出は子どもたちも大喜びの様子でした！



※お問い合わせ先※

TEL 0561-75-2225

URL <https://www.nuas.ac.jp/ccc/>

様々な事業の開催日程はホームページよりご覧ください



Instagram も
チェックしてね♪



@KODOMOCARECENTER

IV. 資料

1. 名古屋学芸大学子どもケアセンター規程

(設置)

第1条 この規程は、名古屋学芸大学学則第63条の3の規程に基づき、名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属子どもケアセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営等に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、子育て支援及び子どもの心身のケア等に関する教育・研究を通じて、ヒューマンケア学部の教育・研究の高度化を推進し、また、その成果を広く地域社会に還元し、地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を遂行するために、次の事業を行う。

- 一 子育て支援及び子どもの心身のケアを担う人材の育成
- 二 子育て支援及び子どもの心身のケアに関する教育・研究
- 三 子育て支援及び子どもの心身のケアに関する相談・助言
- 四 子育て支援及び子どもの心身のケアに関わる地域ネットワークの構築
- 五 地域の子どもを対象とする各種イベントの企画、参加、支援
- 六 その他、センターの目的達成のための諸事業

(職員)

第4条 センターに次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 保育職員
- 三 事務職員

(センター長)

第5条 センター長は、本学に所属する教授のうち、学長が任命する。

2 センター長は、第3条に掲げる業務を遂行する。

3 センター長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

なお、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(次長)

第6条 センターに、センター長が必要と認めるときは、次長を置くことができる。

2 次長は、本学教員の中からセンター長が指名し、学長が任命する。

3 次長の任期は、2年以内とする。ただし、センター長が退任した場合は、センター長の退任日をもって任期の終了とする。

(運営委員会)

第7条 センターに、センターの管理運営に関する重要な事項を審議するため、運営委員会を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、運営委員会及び評議会の議を経て、学長が定める。

附 則

1 この規程は、2016年4月1日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、「名古屋学芸大学子どもケアセンター規程」は廃止する。

(2) 名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属子どもケアセンター運営委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属子どもケアセンター（以下「センター」という。）規程第7条第2項の規定に基づき、名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属子どもケアセンター運営委員会（以下「委員会」という。）に関する事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員を持って組織する。

一 ヒューマンケア学部長

二 センター長

三 子どもケア学科長

四 子どもケア専攻主任

五 幼児保育専攻主任

六 児童発達教育専攻主任

七 センター次長

八 センターの保育職員・事務職員のうち、センター長が指名する2名

九 アドバイザー 3名以内

2 委員会に委員長を置く。委員長はヒューマンケア学部長とする。

3 第1項第一号から第六号までの委員の任期は、各号に該当する役職の任期期間とする。

4 アドバイザーは、日進市子育て支援事業関係者及び本学教員の中から、センター長の推薦に基づき、学長が任命する。また、日進市子育て支援事業関係者の場合は、日進市等に対して任命に必要な手続きを行う。

5 アドバイザーは、センター長の要請により運営委員会に参加することができ、センターの業務に対してアドバイスすることができる。

6 第1項第七号の委員の任期は、子どもケアセンター規程第6条第3項の定めるところとする。

7 第1項第八号及び第九号の委員の任期は、1年以内とする。

8 第1項に定める各委員は、再任することができる。

(招集)

第3条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長に事故のある時は、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

3 委員会は、原則として、年度初め(4月)及び年度末(3月)の2回開催する。

4 前項以外に、学長あるいは委員長が必要と判断した場合は開催することができる。

5 委員長は、委員の2分の1以上の委員に請求された場合は、委員会を開催しなければならない。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

一 子どもケアセンター規程の制定及び改廃

二 事業計画及び予算に関する事項

三 事業報告及び決算に関する事項

四 センターの運営に必要な事項

五 学長、委員長及びセンター長が審議を必要とした事項

(定足数)

第5条 委員会は、委員総数の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 アドバイザーは、定足総数に加えない。

(議決)

第6条 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、委員会の議を経て、学長が定める。

附 則

この規程は、2016年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

2. 各事業のチラシ

(1) 親力アップセミナー

親力アップセミナー

親子で楽しむ音楽体験

～手遊びからクラシックまで～

講師：岡田 暁子

名古屋学芸大学
ヒューマンケア学部 教授

日時：7月5日（金）

10：00～11：30（受付9：50～）

対象：1歳以上～4歳未満の子どもとその保護者
（2020年7月6日～2023年7月5日生まれ）

定員：13組

コンサートの案内に「未就園児は入場をご遠慮ください」の文字をよく目にします。本当は小さなお子さんにも聴いてほしいし、子育て中の方にも癒しの時間をお届けしたい。

小夏のひと時、お子さんと一緒にゆっくり生の音楽を聴きませんか？そして、一緒に楽器に触れたり、リズムにのったりしながら、音をとおしたコミュニケーションの時間を楽しみませんか？

申し込み 6/4（火）～6/9（日）
ホームページの申し込みフォームから
応募多数の場合、抽選



名古屋学芸大学
ヒューマンケア学部附属
子どもケアセンター
0561-75-2225
<http://www.nuas.ac.jp/cac/>

親力アップセミナー

ヨガと瞑想

～ありのままを楽しもう～

講師：林 麗子

名古屋学芸大学
ヒューマンケア学部 准教授

日時：10月2日（水）

時間：10：00～11：30（受付9：50～）

対象：6ヶ月～4歳未満の子どもとその保護者

（お子さんは別室で過ごします

保育士と学生が託児をさせていただきます）

心身をリラックスさせ

自身のありのままを受け入れ

“ゆだねる”を体験しましょう

ヨガや瞑想を取り入れたボディワーク
わずかな時間、お子さんと離れて
素のからだを感じていることに意識を
向けながら、身体を無理なく動かして
ほぐしていきます

心身をリラックスさせた後

お子さんと再び出会います。

申し込み 8/27（火）～ 9/1（日）

ホームページの申し込みフォームから

応募多数の場合は、抽選

名古屋学芸大学

ヒューマンケア学部附属

子どもケアセンター

0561-75-2225

<http://www.nuas.ac.jp/ccc/>

親力アップセミナー

子どもの育ちと愛着形成

講師：藤井 真樹

名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 准教授

日時：12月5日（木）

10:00～11:30（受付9:50～）

対象：2021.12.6～2024.6.5生まれの

子どもとその保護者

（お子さんは別室で過ごします

保育士と学生が託児をさせていただきます）

定員：10組

乳児期に特定の大人との情緒的な絆をしっかりと形成することは、生涯にわたって影響を及ぼすとても大切なことです。この特定の大人との情緒的な絆は、専門的な言葉では「愛着（アタッチメント）」と呼ばれています。例えば、人には人それぞれの他者との関わり方、周囲の出来事の捉え方・受け止め方がありますが、これも乳児期のアタッチメントが特定の大人との間でどのように形成されたのかということが基盤となっています。

子どもが、自分を肯定し、他者を信じて広い世界へ意欲的に踏み出していくための土台はいかに形成されるのかについて考える場にしたいと思います。

申し込み 11月5日（火）～11月10日（日）

HPの申し込みフォームから

応募多数の場合、抽選



名古屋学芸大学ヒューマンケア学部付属

子どもケアセンター

0561-75-2225

<https://www.nuas.ac.jp/ccc/>

(2) 遊びの交流会

遊びの交流会 名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部附属 子どもケアセンター

ワクワク こどものくに

～あつめよう、ひみつのたから！～



ねん がつ にち ど
2024年11月9日(土)
10:00～12:30

Instagramで
準備の様子を公開します！

チェックしてみてね！



@KODOMOCARECENTER

遊びの交流会とは…

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部の学生が
企画・運営し、地域の子どもたちに楽しい遊びを
提供するイベントです！

場 所:名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部

対 象:3 歳以上の未就学児

申込方法:ホームページからの申込み

申込期間:10月1日(火)～10月6日(日)

【その他】

- ① きょうだいの参加、その他詳細はホームページをご覧ください。
(下記 QR コード有)
- ② 当選された方には後日ご案内を郵送します。
- ③ 駐車場、大学バスを利用することができます。



子どもケアセンター

愛知県日進市岩崎町竹ノ山57 〒470-0196
TEL.0561-75-2225 FAX.0561-75-2226
<https://www.nuas.ac.jp/ccc/>



ホームページ

後援:日進市

しゅ やく 主役はキミ！ え ほん せ かい に 絵本の 飛び込もう

2025.3.1 (土)

遊びの交流会とは…

名古屋学芸大学ヒューマンケア
学部の学生が企画・運営し、地域
の子どもたちに楽しい遊びを提
供するイベントです！

場 所:名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部

対 象:3歳以上の未就学児

申込方法:ホームページからの申込み

申込期間:1月28日(火)~2月2日(日)

【その他】

- ① きょうだいの参加、その他詳細はホームページをご覧ください。
- ② 当選された方には後日ご案内を郵送します。
- ③ 駐車場、大学バスを利用することができます。

Instagramで

準備の様子を公開します！

チェックしてみてね！



@KODOMOCARECENTER



 **NUAS**
名古屋学芸大学



子どもケアセンター

愛知県日進市岩崎町竹/山 57 〒470-0196
TEL 0561-75-2225 FAX 0561-75-2226
<https://www.nuas.ac.jp/cc/>



ホームページ

後援：日進市

3. 子どもに多く見られる感染症の改訂

子どもに多くみられる感染症				
	疾患名 【病原体】	特徴	潜伏期間	主な症状
第2種	インフルエンザ 【インフルエンザウイルス】	感染力が強い 毎年ウイルスの型が変化する	1～4日	高熱、だるい、筋肉・関節痛、咳、鼻水
	百日咳 【百日咳菌】	短い間隔で連続した咳の後、息を吸うときにヒューという笛の音のような音がするという発作を繰り返す	7～10日	咳、くしゃみ、鼻水、微熱
	麻疹（はしか） 【麻疹ウイルス】	好発年齢は2歳以下のワクチン未接種者 感染力が強い	8～12日	発熱、咳、鼻水、発疹、口腔内白色粘膜疹（コプリック斑）
	流行性耳下腺炎（おたふく） 【ムンプスウイルス】	3～6歳に多い 30％程度は症状を示さない不顕性感染	16～18日	耳下腺の腫れや痛み、発熱
	風疹（三日ばしか） 【風疹ウイルス】	予防接種の普及で感染者は少ない 発疹が3日で消失することから「三日ばしか」と言われる	16～18日	発疹、発熱、耳介後部のリンパ節の腫脹、眼球結末の充血
	水痘（水ぼうそう） 【水痘帯状疱疹ウイルス】	2～8歳に多い 感染力が強い	14～16日	水疱を伴う発疹、発熱
	咽頭結膜熱（プール熱） 【アデノウイルス】	幼児～学童に多い プールの水を介して感染していたことから「プール熱」ともいうが現在はタオルなどの共有による感染もある	2～14日	高熱、のどの痛み、頭痛、食欲不振、結膜炎
	新型コロナウイルス 【コロナウイルス】	感染力が強く、ウイルスの株が変異を繰り返す	2～7日	だるい、咳、発熱、のどの痛み、嗅覚異常、味覚異常
	結核 【結核菌】	結核菌に感染しても、発病しない人がほとんどである	半年～2年	咳、痰、微熱、だるい
第3種	髄膜炎菌性髄膜炎（侵襲性髄膜炎菌感染症） 【髄膜炎菌】	めずらしい菌ではないが、血液や髄膜に侵入した場合、後遺症や死亡に至る危険性が高い重症疾患	4日以内	発熱、頭痛、吐き気、皮下出血や発疹、息苦しい、光がまぶしい
	腸管出血性大腸菌感染症 【O157、O26、O111など】	熱に弱いので、食材の加熱をよく行う	10時間～6日	腹痛、水様の下痢便、血便
	流行性角結膜炎 【アデノウイルス】	「はやり目」とも言われ、夏に多くみられる すべての年齢層で発症する	2～14日	まぶたの腫れ、目やに、涙目、結膜の充血、耳前リンパ節の腫れ
その他の感染症	急性出血性結膜炎 【エンテロウイルス、コクサッキーウイルス】	眼の結膜（白眼の部分）に出血をおこす	24時間～3日	白眼の出血、充血、まぶたの腫れ、目やに、涙目
	突発性発疹 【ヒトヘルペスウイルス】	生後6か月～2歳ごろまでの発症することが多い	10日	38～40℃の高熱が3日ほど続き、解熱と共に全身に発疹が出現する
	感染性胃腸炎 ①ノロウイルス感染症 【ノロウイルス】	集団生活で流行 感染力が強い	12～48時間	吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、頭痛、発熱
	感染性胃腸炎 ②ロタウイルス感染症 【ロタウイルス】	感想や環境変化にも強いウイルス 乳幼児（6カ月～2歳）に多い	1～3日	嘔吐、下痢、白色便、発熱、腹痛
	マイコプラズマ肺炎 【マイコプラズマ属菌】	長く続く咳 肺炎を起こしても症状が比較的軽い 幼児、学童に多い	2～3週間	発熱、倦怠感、頭痛、咳
	A群溶血性連鎖球菌感染症 【A群溶血性レンサ球菌】	喉や皮膚にいる常在菌だが、咽頭炎、扁桃炎、中耳炎、猩紅熱などの原因となることがある 幼児や学童に多い	2～5日	発熱、だるさ、のどの痛み、嘔吐、発疹
	伝染性紅斑（リンゴ病） 【ヒトパルボウイルス】	4～9歳に多い 春～夏に流行する	4～14日	微熱、かぜ症状の後、両頬に紅斑、四肢にレース状または網目状の紅斑が出現する
	RSウイルス感染症 【RSウイルス】	乳幼児に多い 秋～早春に流行するが、近年夏に流行することもある	4～6日	鼻水、発熱、咳、喘鳴
	手足口病 【コクサッキーウイルス、エンテロウイルス】	夏を中心に流行 乳幼児に多い	3～6日	手のひら・足のうらの発疹、口腔粘膜疹、軽度の発熱
	ヘルパンギーナ 【コクサッキーウイルス】	夏を中心に流行 乳幼児に多い	3～6日	高熱、口腔粘膜疹、のどの痛み
	伝染性膿痂疹（とびひ） 【黄色ブドウ球菌】	常在菌である黄色ブドウ球菌が、傷などで増殖して、化膿する それが、飛び火のようにいろいろな場所に広がっていく	2～10日	水疱、膿疱
	伝染性軟属腫（水いぼ） 【伝染性軟属腫ウイルス】	皮膚の表面にできる良性の腫瘍 3歳をピークに幼児にかかりやすい	14～50日	白っぽい水疱のようないぼ
	アタマジラミ 【寄生虫：シラミ】	頭部に寄生し、大きさは2mm程度のため、肉眼で確認できる	卵は6～9日で孵化し、1～2週間で成虫になる	多くは無症状 吸血された部位にかゆみを伴う

感染経路	登園のめやす	予防接種	備考
飛沫、接触	発生した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（乳幼児にあつては3日）を経過すること	任意 13歳未満は2回／1年、 13歳以上は1回／1年	発症後2日以内に、異常行動が見られることがあるため、目を離さないようにする
飛沫、接触	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌剤による治療が終了すること	定期 5種混合もしくは4種混合ワクチン 3回＋追加1回	回復するのに2～3カ月要する
飛沫、空気、接触	解熱後3日を経過していること	定期 MR混合ワクチン （麻疹・風疹） 2回	予防接種を受けていない場合、接触後72時間以内にワクチンを接種すれば発症予防効果がある
飛沫、接触、母子	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になっていること	任意 ムンプスワクチン 2回	接触後のワクチン接種は、発症を予防できるとは限らない
飛沫、接触	発疹が消失していること	定期 MR混合ワクチン （麻疹・風疹） 2回	発疹出現7日前から出現後7日間は感染力がある
空気、飛沫、接触、母子	全ての発疹が痂皮化（かさぶた）すること	定期 水痘ワクチン 2回	
飛沫、接触	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日を経過すること	なし	
飛沫、空気、接触	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過すること	任意	
飛沫、空気	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めること	定期 BCGワクチン 1回	
飛沫、接触	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めること	任意	濃厚接触者には抗菌薬の予防投与が必要
経口、接触	症状が治まり、抗菌薬治療が終了し、48時間をあけて2回の検便により菌陰性が確認されるまで	なし	
接触	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めること	なし	1カ月程度、便からウイルスが排出される
接触	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めること	なし	眼の症状が軽減しても感染力が残ることがある。そのため、登校（登園）を再開しても、手洗いを励行する
接触	解熱して、全身状態が良好であること	なし	
経口、飛沫、接触、塵埃、食品媒介（食中毒）	下痢、嘔吐などの症状が治まり、普段の食事がとれること 全身状態が良ければ可能	なし	消毒は塩素系漂白剤 回復した後も2週間程度、ウイルスが便中に排泄される
経口、飛沫、接触	下痢、嘔吐などの症状が治まり、普段の食事がとれること 全身状態が良ければ可能	定期 1価ワクチン：2回 5価ワクチン：3回	回復した後も2、3週間程度、ウイルスが便中に排泄される
飛沫、接触	症状が改善して、全身状態が良くなってから	なし	感染には濃厚な接触が必要であるため、短期間の暴露における感染拡大は低い
飛沫、接触	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めること	なし	抗菌剤を服用開始して24時間以上経過すると、ほかの人に感染させない程度まで菌数が減少する
飛沫、母子	全身状態がよいこと	なし	発疹出現前に飛沫感染を起こし、発疹出現時にはウイルスの感染力はない
飛沫、接触	咳などの症状が安定し、全身状態がよいこと	なし	乳児の場合、重症化しやすいので注意が必要
飛沫	口腔内粘膜疹の影響がなく普段の食事がとれるようになること	なし	3～5週間程度、便からウイルスが排出される
飛沫、経口	解熱し、普段の食事がとれること	なし	1カ月程度、便からウイルスが排出される
接触	出席停止の措置はない	なし	常に皮膚を清潔に保ち、爪を短く切っておく
接触	出席停止の措置はない	なし	共有による間接的接触を控える
接触	出席停止の措置はない	なし	寝具、タオルの共有を避ける 熱処理が有効

名古屋学芸大学ヒューマンケア学部
附属子どもケアセンター年報 第10号

2025年3月31日発行

発行：名古屋学芸大学子どもケアセンター
〒470-0196
愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地
TEL 0561-75-7111（代表）

印刷：株式会社コムラ
〒501-2517
岐阜県岐阜市三輪ぷりんとびあ3
TEL 058-229-5858